第 3 節　大道遺跡群第 8 次・12 次調査

1　調査の概要

大道遺跡群第 8・12 次調査地点は大道遺跡群の北端部付近にあり、大道遺跡群第 4・5 次調査地点とは現道を挟んで北西側に隣接している地点で、東から第 12 次、第 8 次調査地点の順に位置する。区画整理事業に伴う都市計画道路「大道金池線」の路線内に該当する地域であり、また東隣の第 4・5 次調査地点で多くの遺構が検出されたことから、確認調査を待たず平成 16 年度以降に本調査の調査対象地区となっていた。しかし、当該地区は一部が JR 大分駅南口前駐輪場であり（第 12 次調査地点）、また一部には移転未了の宅地があった。このため、まず平成 16 年度に空き地となっていた第 8 次調査地点を発掘調査し、調査後に駐輪場を第 8 次調査地点に移した後、跡地を平成 17 年度に発掘調査した。（第 12 次調査）、残る宅地については平成 19 年度末の移転完了後、平成 20 年度に本調査を実施することとした。（第 29 次調査）

2　基本土層

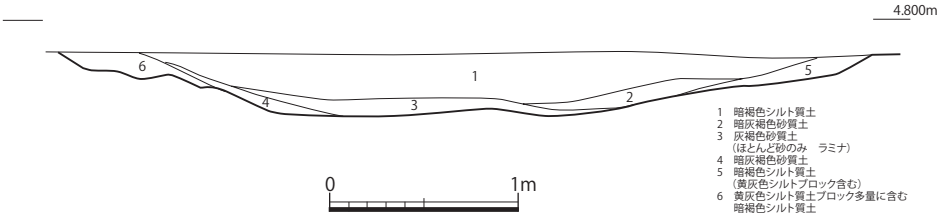
第 8・12 次調査地点では、基本的には第 4・5 次調査地点と同じく、表土下には石炭殻を主体とする厚い客土層があり、その下位に近代・近世の水田層がみられる。しかし、第 4・5 次調査地点よりも近代における削平は著しいとみられ、近世以前に遡る黒色の包含層は認められず、近世の水田層直下が黄灰色シルト質土からなる基盤土層となっている。各遺構はこの基盤土層上面で検出されるものであるが、こうした土層堆積状況のため、古代から近世に至るまでの遺構が同一面上において検出される。遺構検出面の標高は概ね 4.6 ～ 4.7m である。

3　検出された遺構と遺物

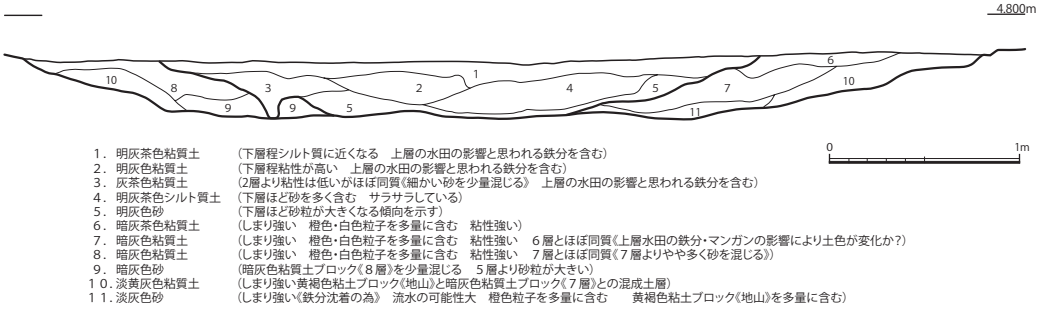
古代の大溝遺構（SD）

8SD001・12SD010（第 59 図、土層：第 57 図、第 58 図）

第 4 次・第 5 次調査で検出された大溝遺構の延長部分にあたる遺構である。8 次調査区では幅約 6.4m、検出面からの最大深は約 0.5m である。12 次調査区では幅約 7.7m、検出面からの最大深は約 0.5m である。第 12 次調査区では掘り返しと見られる土層の不整合が観察されており、掘り返し後の溝の幅は約 4.7m に減じていることが推定された。埋土の下底部付近には砂層が堆積していることが確認されており、水路であったことが窺え

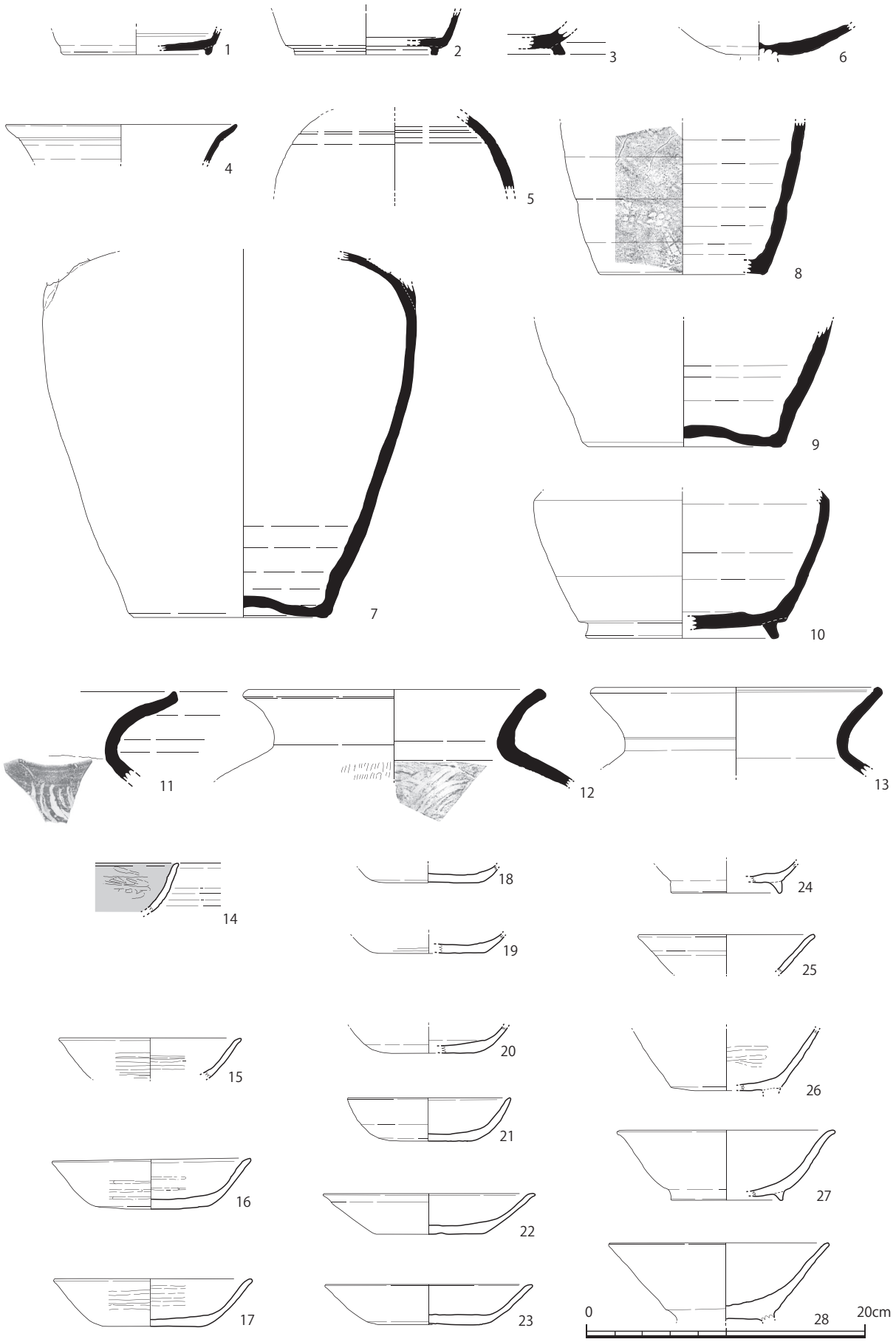


第 57 図　古代大溝 8SD001 土層断面図（1/40）

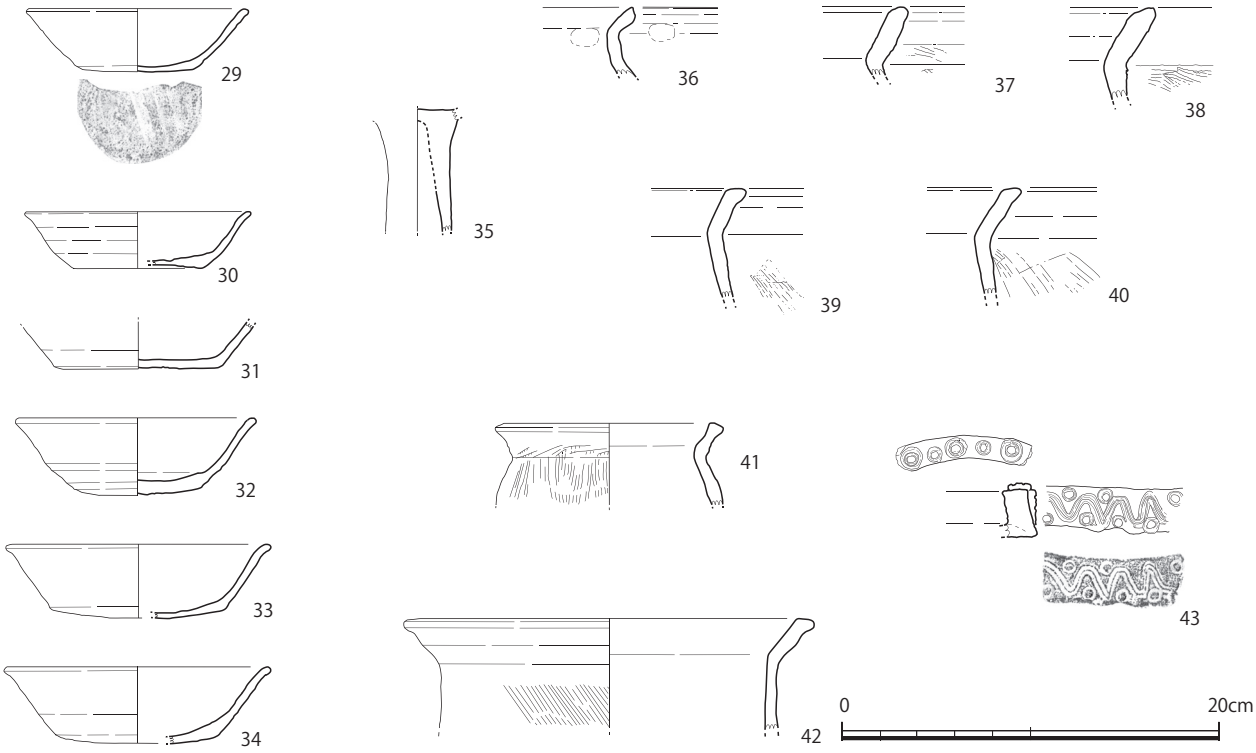


第 58 図　古代大溝 12SD010 土層断面図（1/40）

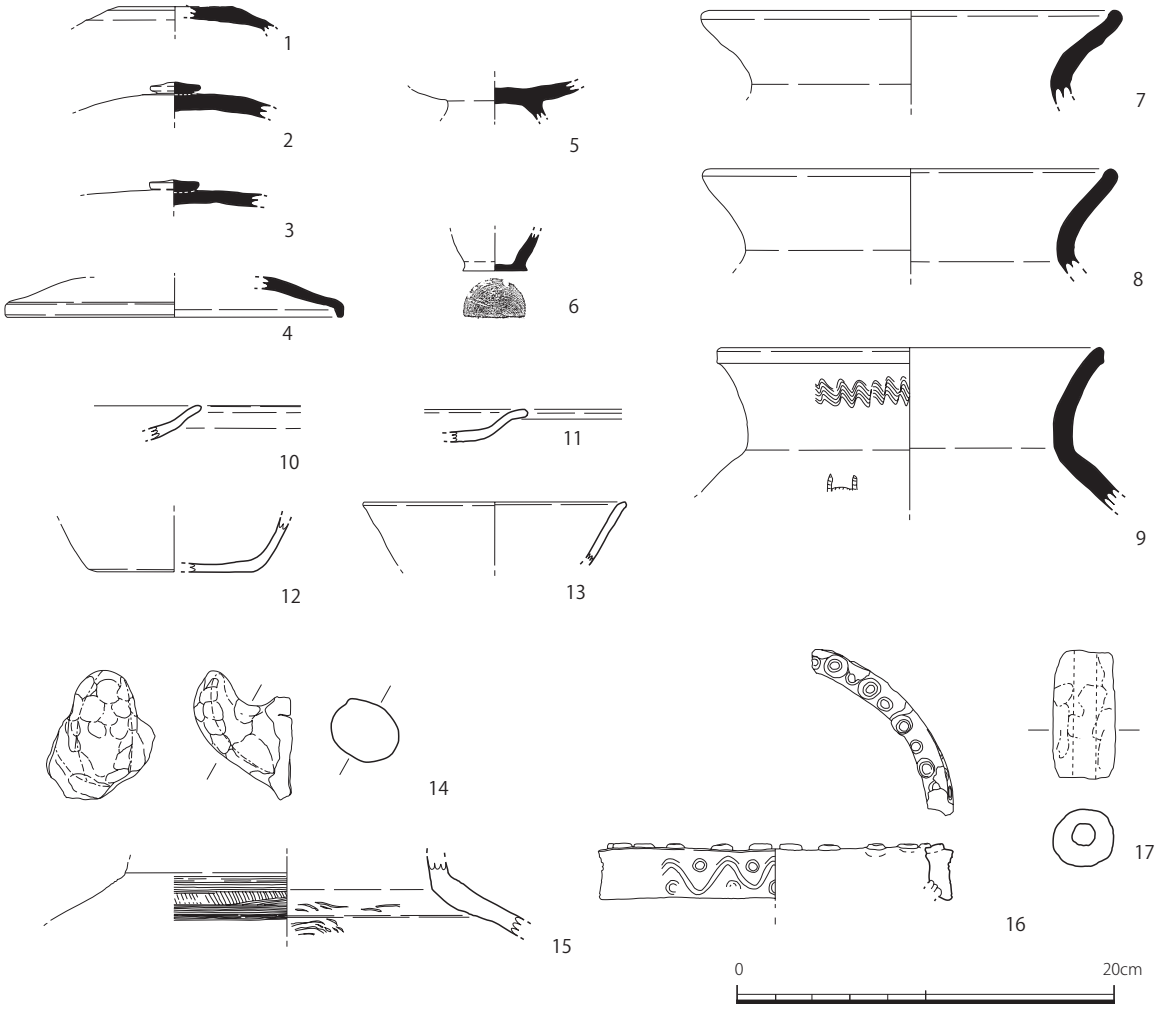
第59図 大道8・12次調査区遺構配置図　（1/250）



第 60 図　8SD001 出土遺物 1（1/4）



第 61 図　8SD001 出土遺物 2（1/4）



第 62 図　12SD010 出土遺物（1/4）

る。溝の主軸方位はN-29°-Wで、第4・5次調査区において検出された大溝とほぼ一致しておりおおむね直線的に延びていると思われる。第8・12次調査区いずれにおいても、溝の縁部においては、多数の小ピット群が検出されている。これらは溝の傾斜に対して直角方向のもの、溝の傾斜方向にではなく鉛直方向に延びるもの、ピットが奥で横方向に延びていて終端が確認できないものなどがあり、一定しない。これらピット群の性格については第4・5次調査と同じく杭跡と樹木根の両方を含んだものと考えておきたい。出土遺物から、9世紀前半に埋没したものと推定される。

8SD001出土遺物（第60図、第61図）

1～13は須恵器である。1～3は高台付きの坏、6は高坏である。4・5・7～10は壺である。7・9は底部が上げ底となるもので、7では肩部に最大径があるプロポーションを呈し、縦方向の耳がつく器形であることがわかる。9世紀前半代の所産であると考えられる。8はおそらく平底で、外面には格子状のタタキが認められる。10は長頸壺であろう。11～13は甕口縁部である。

14は黒色土器A類の碗である。15～17、22・23は太宰府系土師器坏dで、16・17では器面に粗面ミガキが認められる。24～28は土師器椀である。26では内外面にミガキが認められる。29～34は土師器であるが、器面にミガキが認められず、9世紀前半頃に位置づけられるものである。36～42は土師器甕で、このうち37～40および42はいわゆる企救型甕である。

12SD010出土遺物（第62図）

1～4は須恵器坏蓋である。4は端部形態からみて8世紀後半にまで遡るものと推定される。5は須恵器高坏である。6は平底の小型の壺と思われるものである。底部は回転糸切りによっており、明らかに豊後国外からの搬入品と判断される。7～9は須恵器甕である。10・11は土師器蓋、12・13は土師器坏である。14は土師器甑の把手である。15は須恵器甕であるが、焼成不良のため茶褐色を呈するものである。16は弥生時代後期初頭の複合口縁壺である。17は土錘である。

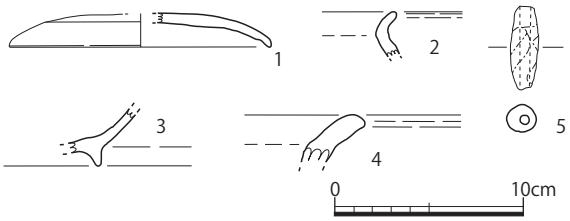
古代の性格不明遺構（SX）

12SX005（第64図）

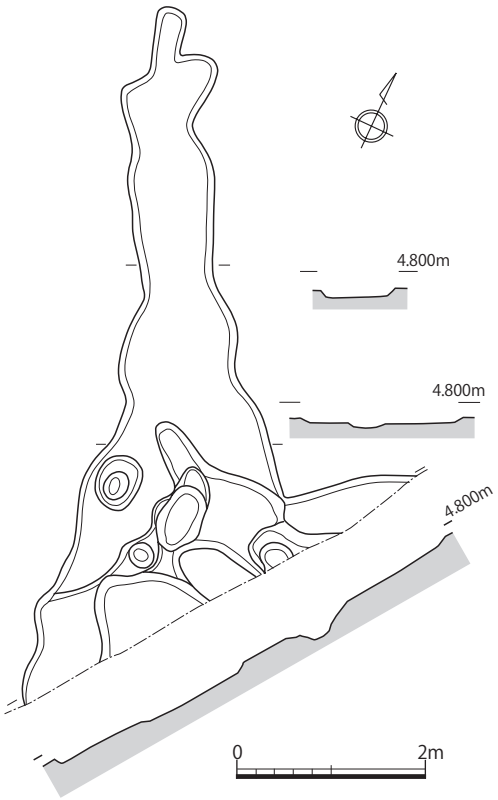
第12次調査区北東端部で検出された遺構で、不定形の浅い溝状を呈する。東に向かって幅が広くなっており東端部では幅約2.7mに達する。深さは非常に浅く5～10㎝であるが、東ほど深く、東端部中央で約15㎝である。暗褐色シルト質土を基調とする土で埋積している。性格は不明であるが、出土遺物から8世紀末頃に埋積したものと考えられる。

出土遺物（第63図）

1は土師器坏蓋、2は土師器椀の底部である。3は小型の土師器甕、4は企救型甕である。5は土錘である。



第63図　12SX005出土遺物（1/4）



第64図　12SX005平面・断面図（1/80）

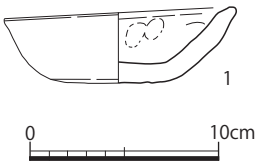
中世・土坑（SK）

8SK011（第 66 図）

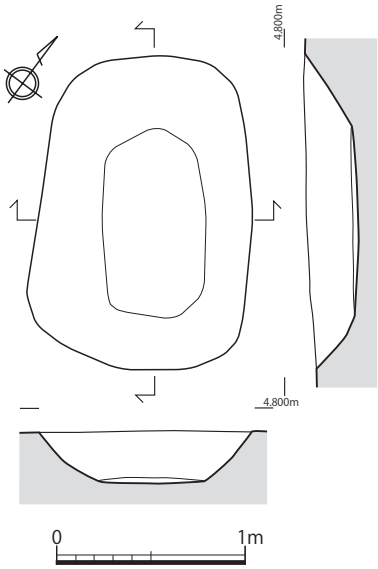
第 8 次調査区南部で検出された土坑である。近代以降の耕作に伴うとみられる浅い溝に切られている。長軸 1.7m、短軸 1.1m、検出面からの深さ約 0.3m である。底部付近において完形の京都系土師器坏が伏せた状態で出土している。出土遺物から遺構の年代は 16 世紀末から 17 世紀初頭と推定される。

出土遺物（第 65 図）

1 は完形の京都系土師器坏である。淡黄白色の精製胎土を使用したもので、口縁部内面のナデは「2」の字ナデである。口径に対し、器高が高くいわゆる箱形に近い形態でかつ器壁が厚いタイプであり、16 世紀末から 17 世紀初頭に位置づけられるものであろう。



第 65 図
8SK011 出土遺物（1/4）



第 66 図
8SK011 平面・断面図（1/40）

近世・溝状遺構（SD）

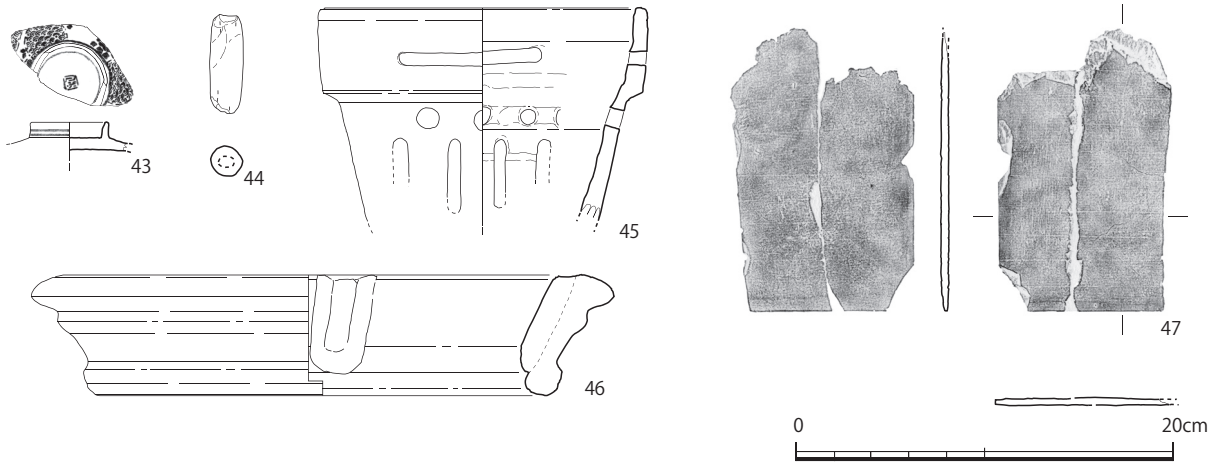
8SD013（第 59 図）

第 8 次調査区南西端部から第 29 次調査区南端にかけて検出された溝状遺構であり、北西→南東方向へ斜行し、8 次調査区内で南へ曲がって調査区外に至る。8 次調査区における最大幅は 2.4m、最大深は検出面から 0.5m で断面は U 字形を呈する。灰褐色粘質土を基調とする土で埋積したが、下底部は砂質土であり、水流があったことを示していた。出土遺物には、17 世紀から 18 世紀台の近世陶磁器が多くみられるが、最も新しく位置づけられる遺物から、明治初期に埋没した水路跡と考えられる。

出土遺物（第 67 図、第 68 図）

1 は青白磁合子で、12 世紀代の所産と思われる。2 は白磁紅皿で、18 世紀以降の製品である。3 ～ 8 は青磁である。このうち 8 は、15 世紀頃の龍泉窯系青磁の可能性が考えられるものである。3・5 ～ 7 は近世の国産青磁で 3・6 は香炉、5 は皿、7 は小壺と思われるものである。4 は 19 世紀前半の三田青磁と思われる皿で、高台は貼りつけによる。9 は肥前染付水滴、10 は肥前磁器人形の足である。12 ～ 16 は肥前染付皿である。12 は蛇目凹形高台を有するもので、18 世紀後半～末頃に位置づけられる。14 ～ 16 は 18 世紀前半～中頃に位置づけられるものである。13 はいわゆる初期伊万里で、17 世紀前半頃の所産と考えられる。17・18 は肥前染付蓋で 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけてのものであろう。19 は肥前染付香炉である。20・21 は肥前染付筒形碗で 18 世紀後半。22・24 はいわゆるくらわんか手の碗で、18 世紀前半～中頃。23 はコンニャク印判による染付碗で 18 世紀前半。25 は瀬戸・美濃産と思われる染付碗で 19 世紀前半。26 は 19 世紀前半の肥前染付端反碗で、口縁部には焼継痕がみられる。27・30・32 は肥前陶器碗、31 は肥前陶胎染付碗で 17 世紀末～ 18 世紀前半。28・29 は京信楽系陶器碗で 18 世紀後半、33 も京信楽系陶器碗で、19 世紀前半。34 は肥前陶器皿で、砂目積み痕がみられ、17 世紀前半。35 は関西系陶器土瓶の蓋である。36 は産地不明の陶器でおそらく鉢と思われる。内型により成形されると思われ、口縁部内面には文様が陽刻される。全面に薄い緑釉が掛かる。37・38 は肥前陶器灯明具で、37 は燭台、38 はひょうそくである。39 は産地不明の焼締陶器である。40 は備前焼と思われる擂鉢で 17 世紀代であろう。41・42 は全面に鉄釉の掛かる陶器擂鉢で、18 世紀の肥前産である。43 はいわゆる明治印判の染付蓋で、型紙摺により施文される。明治 5 年以降の所産で、8SD013・29SD001 出土品のうち最も新しいものである。44 は土錘である。45・46 は土師質土器焜炉である。47 は結晶片岩を薄く

第 67 図　8SD013 出土遺物 1（1/4）



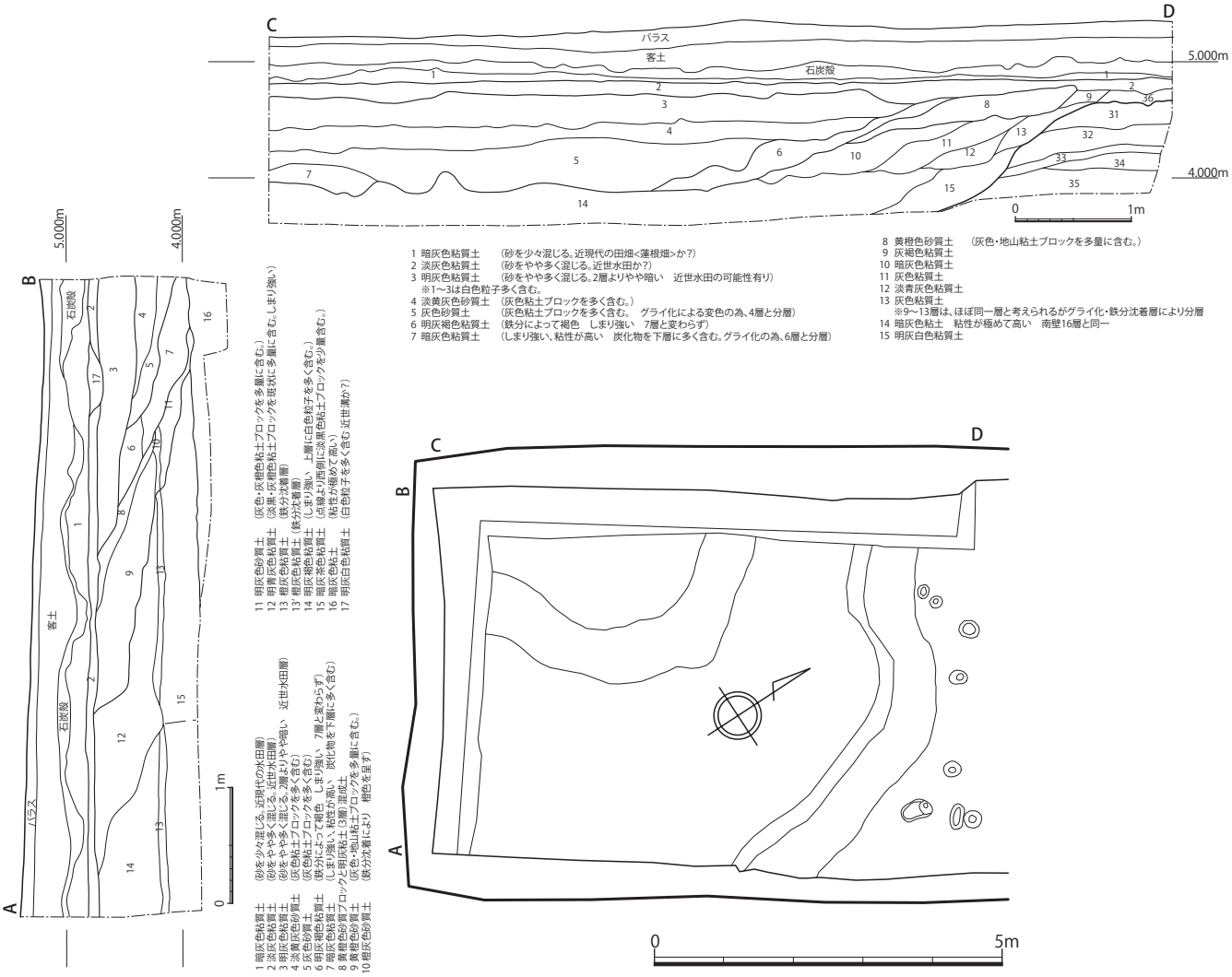
第 68 図　8SD013 出土遺物 2（1/4）

板状に加工した石版で、近代以降の所産であろう。

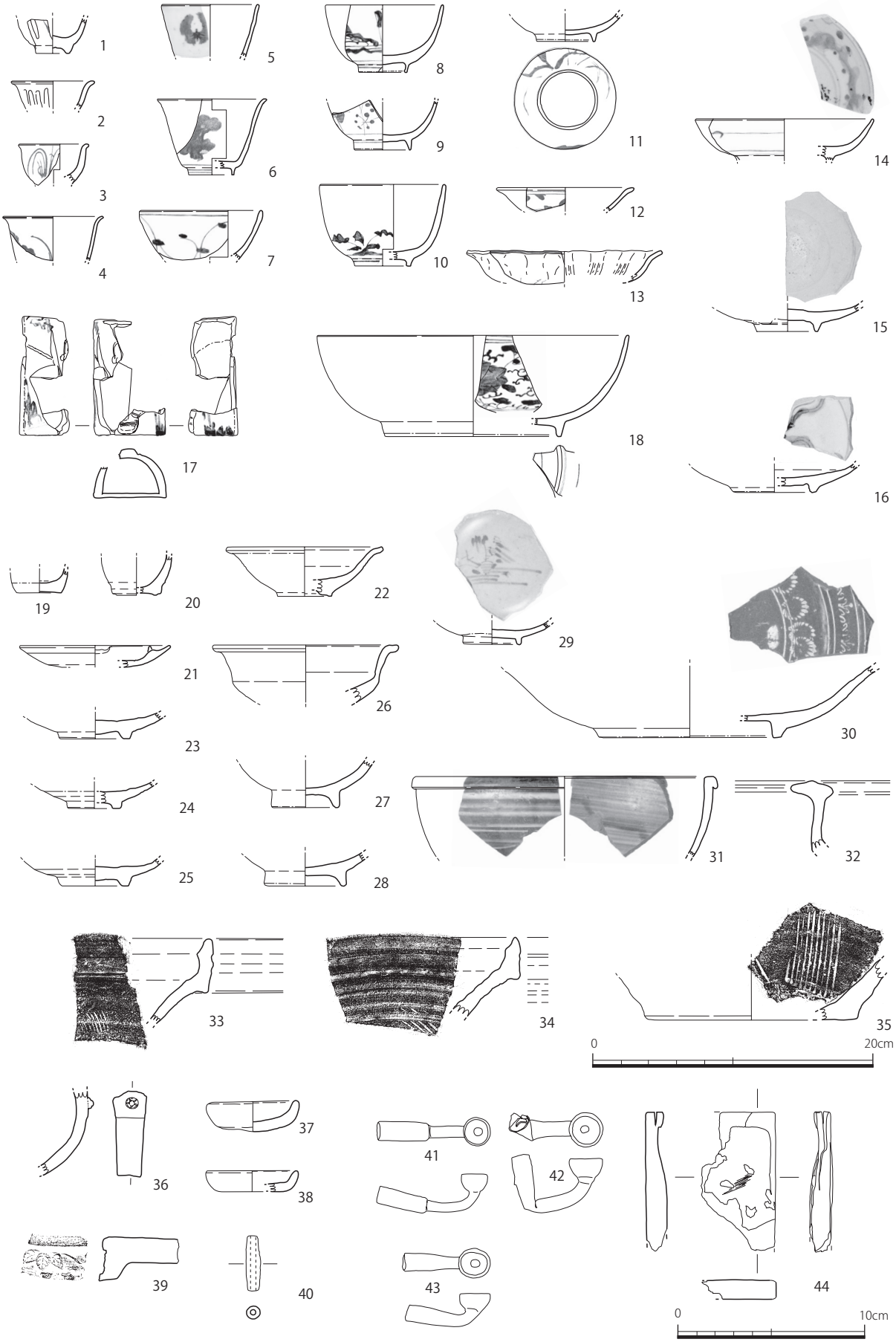
近世・水溜遺構（SX）

12SX020（第 69 図）

第 12 次調査区南端部で検出された遺構で、南側へ向かって掘り込まれている。検出面からの深さは 1.0m 以



第 69 図　12SX020 平面・土層断面図（平面：1/100、土層断面：1/60）



第 70 図　12SX020 出土遺物（1/4）

上あることが確認でき、標高 3.6m 以下にまで続いているが、壁面が崩落するおそれが高いためこれ以上の掘り下げは行っていない。青灰色～灰色の粘質土を基調とした土で埋積しており、滞水していたことが窺われ、とくに 14 層以下では激しい湧水が認められた。また 3 ～ 5 層はブロック土を多く含む土であり、人為的な埋め戻しが行われたことを示す。また、隣接する第 8 次調査区南東端では「攪乱」とみなして掘り下げを行っていないが、12SX020 と一連の遺構であったことも考えられ、その場合、東西約 17m を超える規模であったことになる。出土遺物は 18 世紀後半頃までのものであることから、このころに埋め立てられたとみられる。杭列等の付属遺構は検出されていないが、滞水が認められる大型の掘り込みであり、灌漑及び低湿地の排水機能を担う水溜状の施設であったことが考えられる。

出土遺物（第 70 図）

1 ～ 3 は肥前磁器小坏で、1・2 は白磁、3 は染付であり、17 世紀前半の所産である。4 ～ 6 は肥前染付小坏で、コンニャク印判により文様が施文される。7 ～ 10 は肥前染付碗で、18 世紀前半。11 は肥前磁器の色絵碗で上絵付により文様が描かれているが、土中にあったためか黒色に変色しており、元々の色調は不明である。12 は中国産の青花皿で小野分類の B 群に当たる。13 は肥前白磁菊皿で、口縁部には鉄釉が塗られている。15 は見込みが蛇目釉剥ぎされた肥前磁器皿、16 は 17 世紀前半の肥前染付皿である。17 は肥前色絵磁器の水滴で、型作りにより成形され上絵付されている。18 は肥前染付鉢で、内面の唐草文はやや退化しており 18 世紀後半の所産か。19・20 は産地不明の陶器壺である。21 ～ 32 は肥前陶器である。21 は灯明具で、内外面に鉄釉が掛かる。22 ～ 25 は 17 世紀初頭に位置づけられる砂目積みの皿である。26 は小型の鉢、27・28 は碗である。29 は京焼風陶器碗で、内面には鉄絵が描かれる。30 は 17 世紀前半の陶器大皿で、鉄釉を掛けた後、白土を用いて型紙摺で施文している。31 は刷毛目文様を施文された鉢である。32 は甕で、鉄釉が内外面に掛けられている。33 は 16 世紀末に比定される備前焼擂鉢。34 は備前焼もしくは堺産の擂鉢で 17 世紀末～ 18 世紀前半頃の製品である。35 は備前焼擂鉢で 16 世紀代のものである。36 は備前焼と思われるもので、壺の耳もしくは向付等の把手であろうか。37・38 は手づくね成形の土師器小皿である。39 は軒平瓦である。中心飾りは三葉の桐葉文で、17 世紀前半の製品であり、府内城三の丸遺跡や三の丸北口跡、府内城北丸跡に出土例がある。41 ～ 43 は青銅製キセルで、17 世紀代に位置づけられるものである。44 は粘板岩製の硯である。

4　小結

第 8 次・第 12 次調査では古代及び中世末～近世の遺構が検出された。

古代の遺構は、第 4 次・第 5 次調査で検出された大溝遺構が検出され、北西側にも直線的に延びていることが確認された。土層堆積状況についても同様な状況であり、水流の痕跡が確認されている。北西側にはさらに延びていくことが予想でき、当該地域の今後の調査結果が注目される。

近世の遺構では、水溜と推定される大規模な掘り込み遺構が検出されており、18 世紀後半代には埋め戻されていることが判明した。埋土中には 17 世紀代の遺物も多く、掘削時期は 17 世紀代に遡る可能性がある。17 世紀前半に開削される初瀬井路によって当該地域は微高地上まで水田化されたと考えられるが、こうした中でこのような施設がつくられた要因については、今後現用されている事例の調査や聞き取りにより解明される必要があろう。

第 4 節　大道遺跡群第 13 次調査

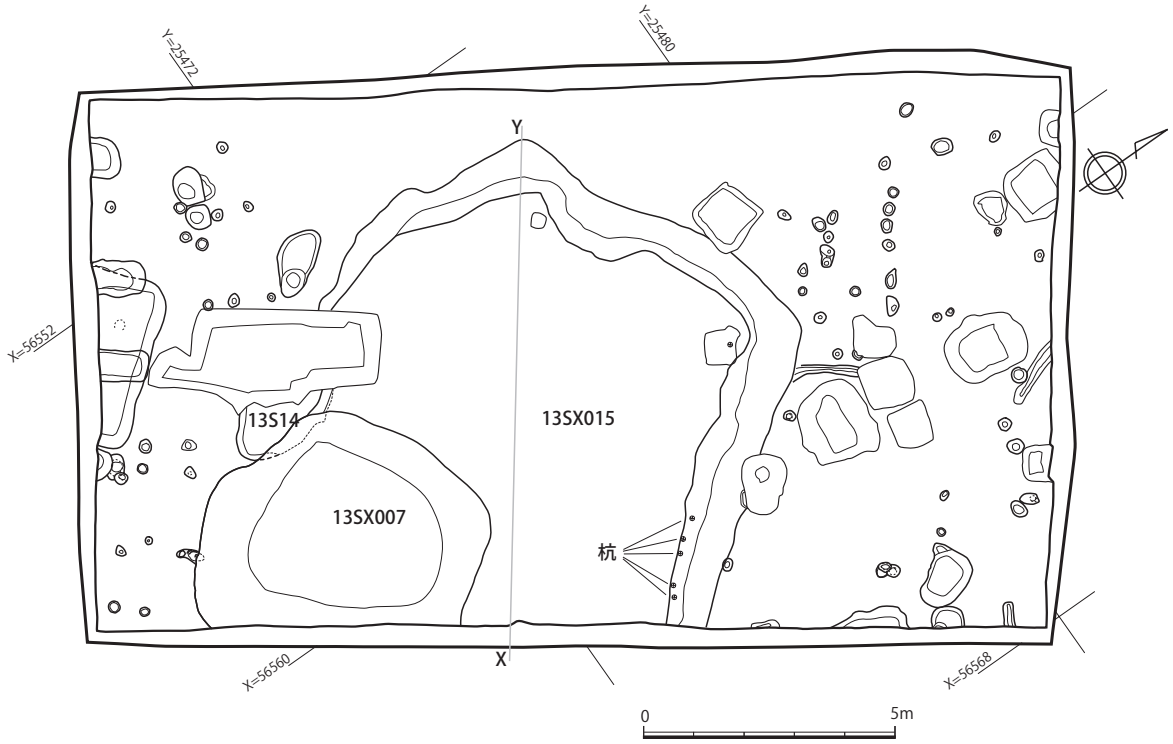
1　調査の概要

大道遺跡群第 13 次調査区は第 8・12・29 次調査区の南西側に位置する。平成 16 年度に行った試掘調査において遺構が検出されたため本調査を実施した。しかし、試掘前に所在した大規模な鉄筋コンクリート造の建造物その他により調査対象となった敷地の大半において遺構面が破壊されていることが試掘結果により判明していたため、遺構が検出された地点周辺に限って本調査を実施することにした。

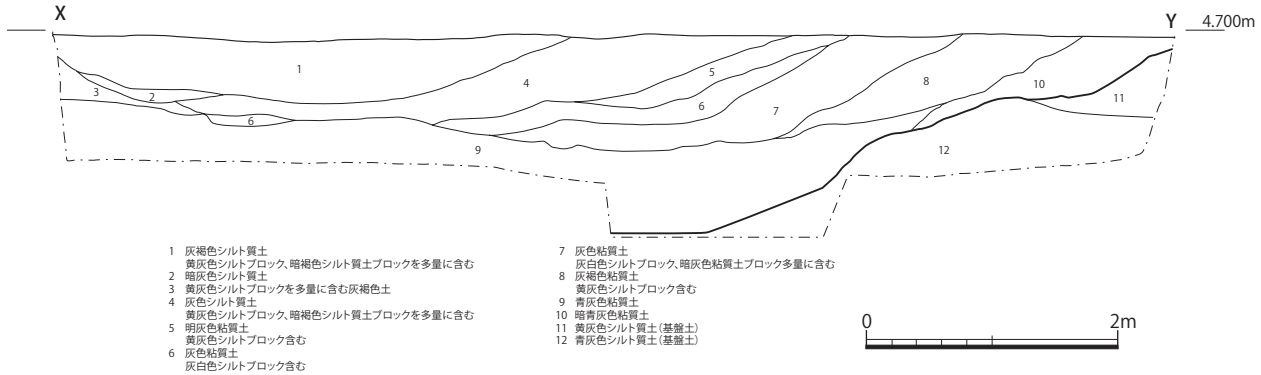
本調査は平成 18 年 1 月 12 日から表土剥ぎに着手し、途中中断を挟んで平成 18 年 3 月 22 日まで行った。

調査の結果、近世・近代の耕作土直下で安定地盤は確認できるものの、中世以前と判断される遺構は認められず、遺構はいずれも近世ないし近代以降のものである可能性が高いことが判明した。

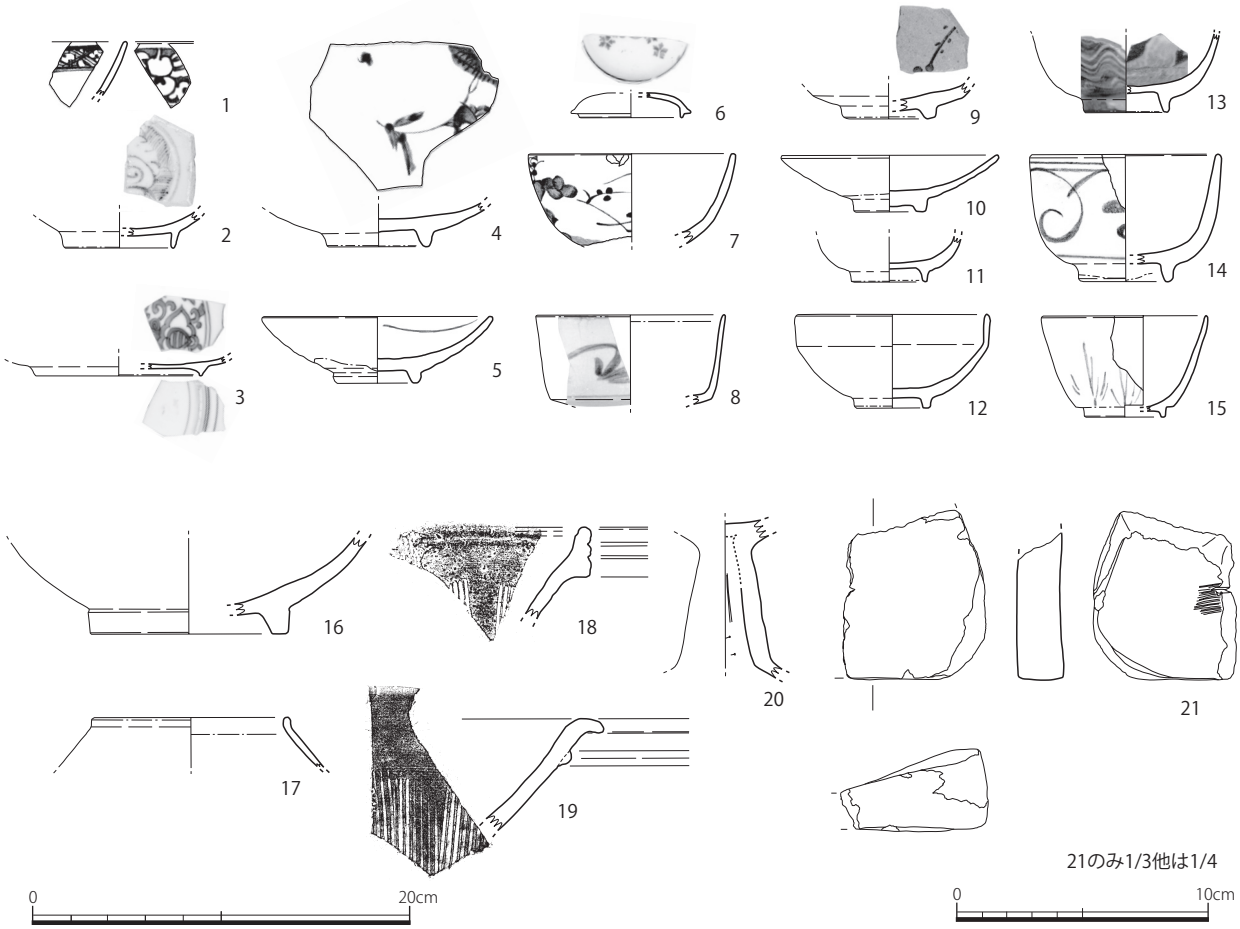
2　遺構と遺物



第 71 図　大道 13 次遺構配置図（1/150）



第 72 図　13SX015 土層図　（1/60）



第 73 図　13SX015 出土遺物　(1/4)

水溜遺構（SX）

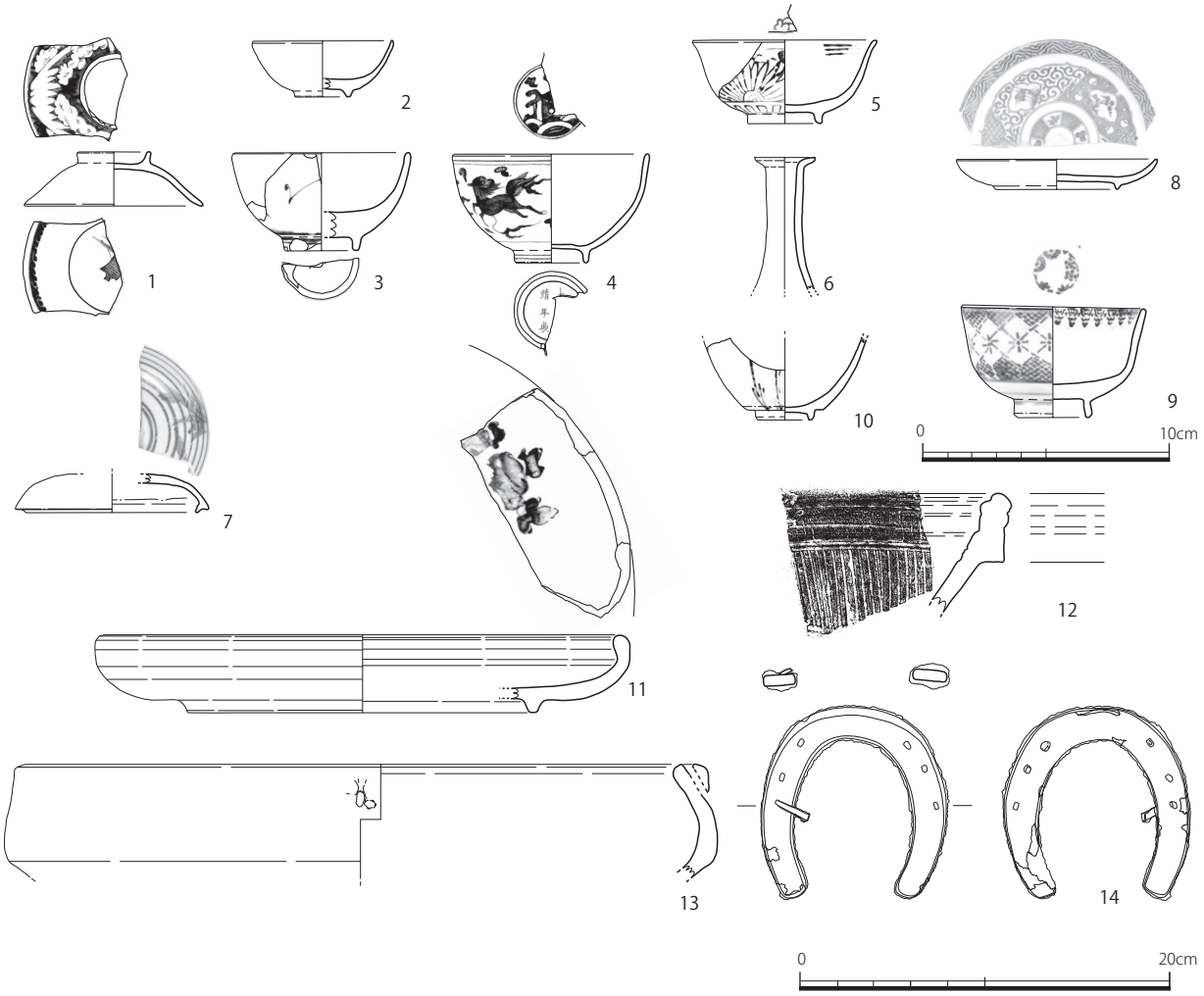
13SX015（第 71 図、土層：第 72 図）

調査区中央で検出された大規模な掘り込みで、東西約 9.5m、南北 12m 以上の隅丸長方形状の平面形を呈するようであるが、南東側は調査区外であり全形は不明である。基盤層である黄灰色シルト質土を約 1.6m 以上掘り込んでつくられている。埋土下層は青灰色の粘質土であり、滞水的な環境で堆積したものと推定される。また調査中も下層（9 層）掘削中には激しい湧水が認められた。埋土の上層はシルトブロックを多数含む粘質土もしくはシルト質土であり、意図的な埋め戻しが行われたことを窺うことができる。遺構堀り方に沿って、杭列が認められ、護岸として機能していたものと推定され、第 12 次調査区で検出された 12SX020 と同じく、灌漑と排水の機能を担う水溜遺構と考えられる。なお、遺構埋積後、南端の一部が掘り返され廃棄土坑 13SK007 となる。

埋土中の遺物から、19 世紀前半に埋め戻されたものと推定される。

出土遺物（第 73 図）

1 ～ 3 は 16 世紀代に位置づけられる中国産の染付である。1 は染付碗小野分類碗 E 群、2 は碗 C 群、3 は皿 E 群もしくは F 群である。4 ～ 8 は肥前磁器である。4 は 17 世紀前半に位置づけられる染付皿である。5 は見込み蛇目釉剥ぎされた粗製の染付皿で 18 世紀前半。6 は型紙摺で文様が施文された染付蓋で 17 世紀末～ 18 世紀前半。7 はいわゆる「くらわんか手」の染付碗で 18 世紀前半の所産である。8 は染付蓋物である。9 ～ 13 は肥前陶器である。9 は鉄絵が描かれた絵唐津皿で 17 世紀初頭のものである。10 は見込み蛇目釉剥ぎされ、内面に銅緑釉が掛けられた陶器皿で 17 世紀後半～ 18 世紀前半。11 は京焼風陶器碗、12 は刷毛目唐津碗、13



第 74 図　13SX007 出土遺物　(1/4)

は陶胎染付碗でいずれも 17 世紀末～ 18 世紀前半に位置づけられる。14 は瀬戸・美濃産陶器碗で内外面に鉄釉が掛けられている。18 世紀中葉～後半のものと思われる。15 は京信楽系陶器碗で 18 世紀後半。16 は肥前陶器鉢で内面と底部付近を除く外面に鉄釉が掛けられている。17 は関西系陶器の土瓶と思われ、19 世紀前半に位置づけられる。18 は備前もしくは堺産の擂鉢で 17 世紀末～ 18 世紀前半。19 は肥前陶器擂鉢で内外面に鉄釉が掛かる。20 は古墳時代前期の高坏である。21 は砂岩製の砥石である。

13SK007（第 71 図）

13SX015 南端の埋土最上層部分で掘り返したと考えられるもので、南北 5.6m 以上、東西 5.2m 以上の不整楕円形状のプランで深さは約 0.6m である。灰褐色粘質土で埋積しており、ブロック土が多量に含まれている 13SX015 上層の埋土とは明らかに区別された。出土遺物から、明治 40 年代以降に埋積したものと推定される。

出土遺物（第 74 図）

1 ～ 3 は肥前磁器染付である。1 は端反碗の蓋で、19 世紀前半に位置づけられる。2 は小碗、3 はくらわんか手の碗で、18 世紀前半～中頃に位置づけられる。4 は 16 世紀後半の中国産染付で、小野分類 E 群である。外面に麒麟と思われる動物が描かれ、見込は荒磯文と思われる。高台内には「大□□靖年製」銘がある。5 は肥前磁器色絵碗で口縁部は外反し、19 世紀前半の所産であろう。上絵付けされているが土中にあったためか黒変しており、元の色は不明である。6 は肥前磁器の青磁瓶である。

10 は京信楽系陶器碗で、外面に鉄絵が描かれる。18 世紀後半に比定される。8 は銅板転写により施文された染付皿で、明治 40 年代以降に比定され、出土遺物中もっとも製作年代の新しいものである。9 は型紙摺により文様が描かれた碗で、いわゆる明治印判であり、明治 10 年以降に普及するものである。11 は京焼と思われる皿で、灰白色で厚く貫入の多い釉が掛けられ、草花文が上絵付されている。

12 は備前もしくは堺産の擂鉢で、18 世紀前半頃のものであろう。13 は土師質土器の焙烙で、口縁部の一部が厚くつくられて穿孔されている。18 世紀後半頃のものと思われる。14 は蹄鉄である。

3　小結

第 13 次調査地点では、近世以降の遺構しか検出できなかった。その中で、第 12 次調査で検出されたものと同様な大型の掘り込み遺構が検出され、水溜遺構と推定された。本調査地点で検出されたものは、周囲に護岸的な機能を有すると推定される杭列を伴っている点が若干異なり、埋め戻された時期についても 19 世紀前半代とやや新しい。近世にこの付近はほぼ水田化されたとみられるが、地下水位の高い低湿な環境であったこともおそらく間違いなく、むしろ排水の方が問題となった可能性も考えられる。このため、排水・灌漑両面を担う調整池的な機能を有したこのような施設がつくられたものと推定される。

第 8 次調査区以東に展開しているような古代あるいは古墳時代の遺構群は全く検出されておらず、これらの時期における遺構の分布域からははずれると考えられる。

第 4 節　大道遺跡群第 6 次調査

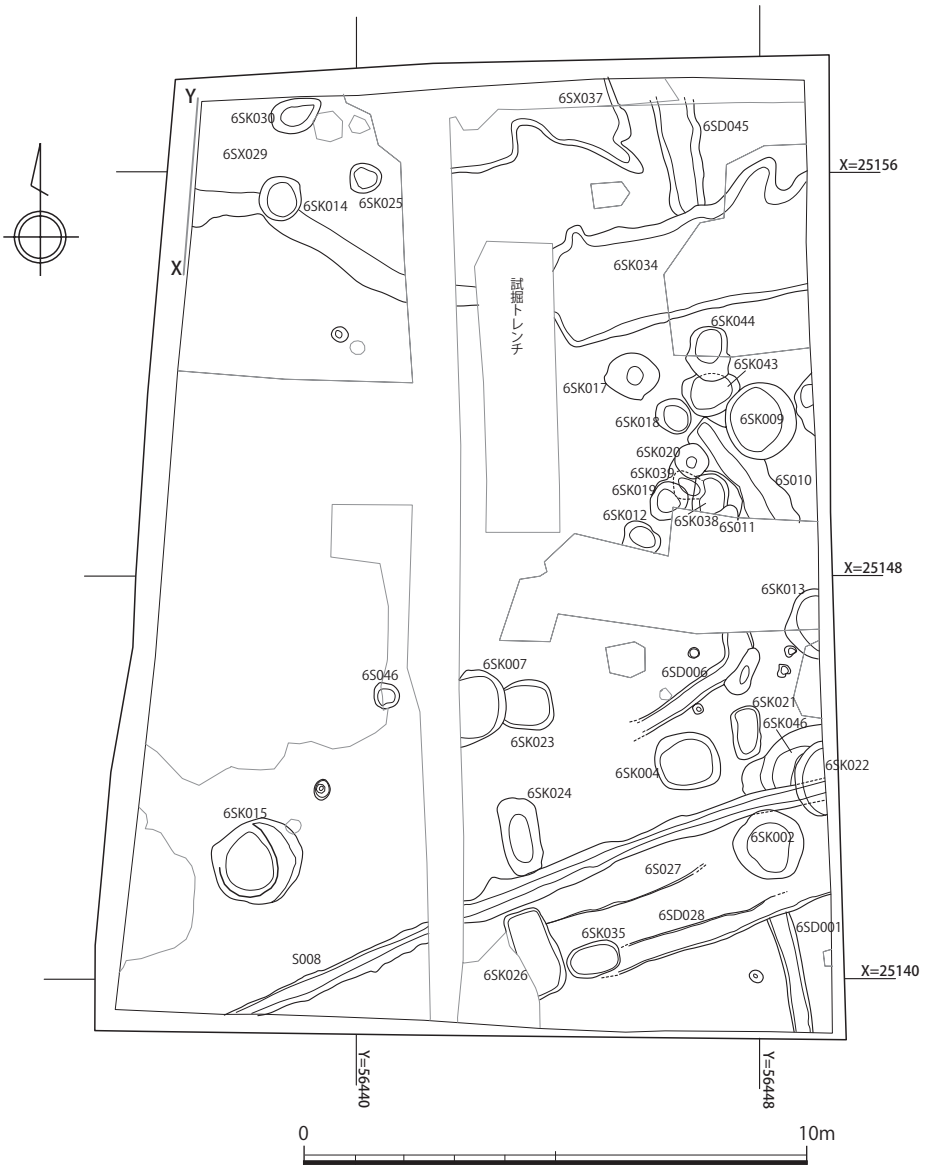
1　調査の概要

大道遺跡群第 6 次調査地は、大分市東大道 2 丁目に所在し、大分駅南土地区画整理事業地区の南西部に位置している。平成 14 年 7 月 19 日から 21 日にかけて実施した確認調査によって、遺構が検出された。確認調査直後には直ちに本調査を実施する予定ではなかったが、平成 15 年 1 月になって、駅周辺総合整備課から 15 年度内に本調査を実施してほしいとの要請があり、対応を協議した結果、1 月末より本調査を実施することになった。

本調査は平成 15 年 1 月 26 日から表土剥ぎを開始し、2 月 1 日から人力で掘削を行い、2 月 26 日に調査を終了した。調査面積は 460 ㎡である。

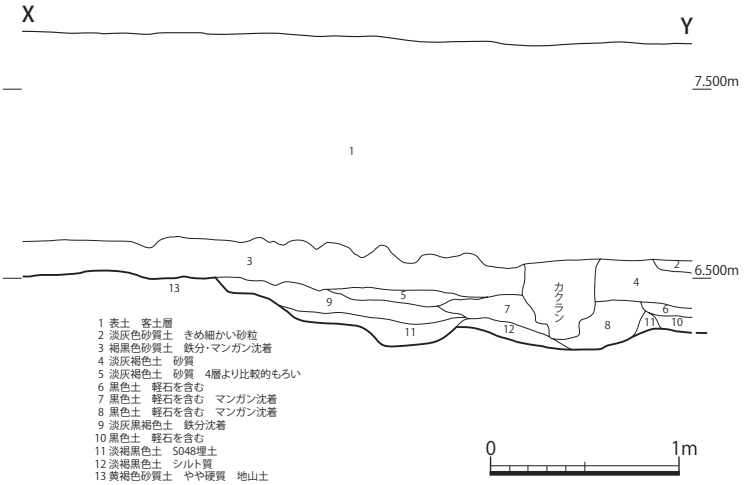
2　基本土層

第 6 次調査区では、調査前にあった建物の基礎をはじめとする攪乱が多く、特に中央部西半は攪乱により、ほとんどの遺構面が破壊されていた。遺構面が良好な形で残存している部分は主に調査区東半側であった。土層

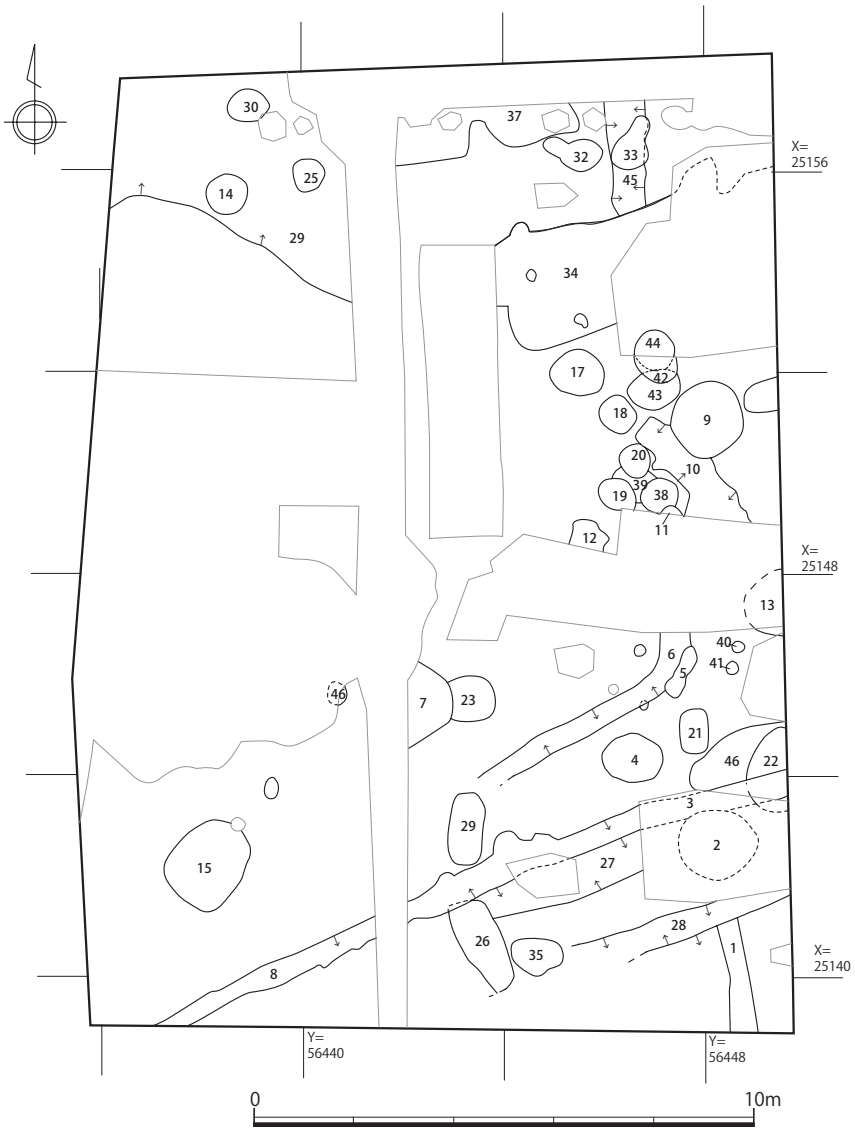


第 75 図　大道 6 次遺構配置図（1/150）

は地表下約 1.2m まで厚い客土があり、この下の 2・3 層約 20 ㎝が近世の耕作土である。調査区内の場所によっては、近世の耕作土がやや厚い場所もみられる。概ねこの直下が基盤土層である黄褐色砂質土であり、すべての遺構はこの上面で検出された。遺構検出面の標高は 6.3 ～ 6.45m である。



第 76 図　大道 6 次基本土層（1/40）



第 77 図　大道 6 次遺構略図（1/150）

3　遺構と遺物

土坑（SK）

6SK002（第 78 図）

調査区南東部で検出された土坑で、6SD003 に切られている。直径約 1.4m の不正円形状を呈し、検出面からの最大深は 0.3m である。出土遺物は僅少であるが弥生土器が出土しているため、当該期の遺構の可能性がある。

出土遺物（第 81 図 2）

2 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。胎土は、石英・角閃石・赤色粒子を含み、色調は内面橙色、外面にぶい橙色を呈し、内外面共ミガキ調整である。

6SK004（第 78 図）

調査区南東端部で検出された土坑である。長軸 1.3m、短軸 1.1m、検出面からの最大深は 0.35m である。埋土は黒色砂質土である。出土遺物は僅少であるが、弥生土器が出土しており、当該期の遺構である可能性がある。

出土遺物（第 81 図 4）

4 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に断面三角形の刻目突帯を 1 条巡らす。弥生時代早期の所産と考えられるものである。胎土は、石英・角閃石・長石を含み、色調は、内面黄灰色、外面浅黄色を呈し、内外面ヨコナデ調整である。

6SK007（第 78 図）

調査区中央部で検出された土坑である。西半分を攪乱により切られており、現状で長軸 1.5m、短軸 0.9m、検出面からの最大深は 0.4m である。埋土は黒色砂質土を基調とする。出土遺物は僅少で、帰属時期は不明である。

6SK009（第 78 図）

調査区東端部付近で検出された土坑で、6SK043・6S010 を切っている。長軸約 1.5m、短軸約 1.4m のほぼ円形を呈し、検出面からの最大深は 0.3m である。出土遺物は僅少であるため時期比定ができない。黒色土を基調とする土で埋まっているが、下層の一部のみ淡灰色あるいは黄灰色砂質土である。

6SK015(第 78 図)

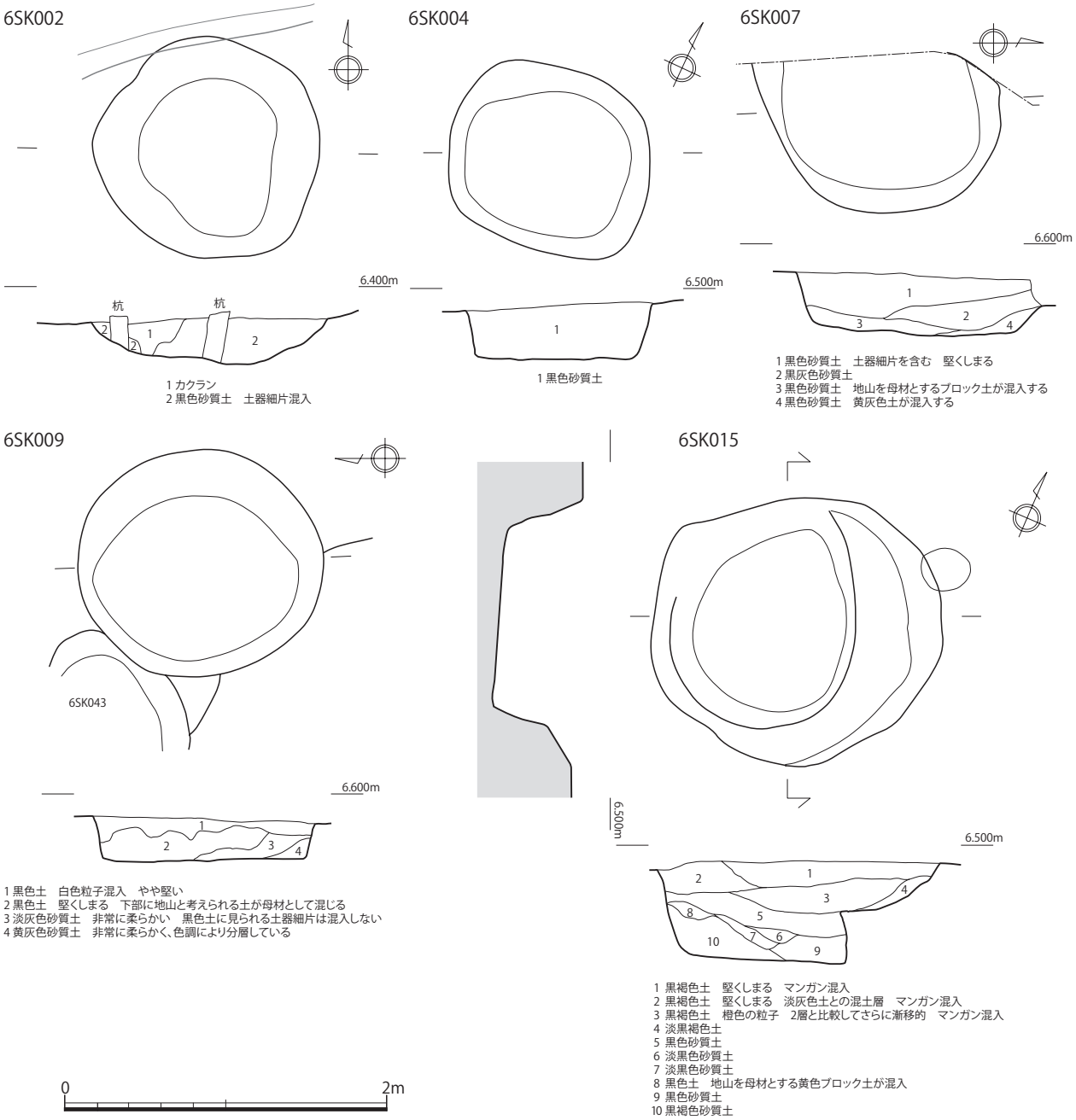
調査区南西部で検出された土坑である。西半分を攪乱により切られており、現状で長軸 1.8m、短軸 1.6m、検出面からの最大深は 0.6m である。遺構は二段になっていて、長軸 1.45m、短軸 1.2m の楕円形状の範囲で深くなっており、これに対応して埋土の土層堆積に明らかな不整合がある。これは同一地点において遺構が再度掘り返されたか、あるいは複数の遺構が重複しているものと思われる。深い部分の壁面は一部がオーバーハングし、袋状を呈する。埋土上部は黒褐色土、下部は黒色砂質土を基調とする。出土遺物は僅少であるが、下層からの出土遺物に弥生土器が認められ、当該期の遺構である可能性がある。

出土遺物 (第 81 図 5)

5 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・雲母・白色粒子を含み、色調は、内面灰黄褐色、外面燈色を呈し、内外面ナデ調整である。

6SK020（第 78 図）

調査区東部で検出された土坑である。直径約 0.7m の不整円形を呈し、検出面からの最大深は 0.2m である。埋土は黒色砂質土を基調とする。出土遺物は僅少であるが、弥生土器が認められ、当該期の遺構である可能性が



第 78 図　大道 6 次調査出土土坑　遺構図 1（1/40）

ある。

出土遺物（第 81 図 6）

6 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・石英を含み、色調は、内外面にぶい黄褐色を呈し、内面ミガキ、外面ハケメ後ナデ調整である。

6SK021（第 78 図）

調査区東部で検出された土坑である。長軸 1.05m、短軸 0.55m、検出面からの最大深は 0.2m である。埋土上部は黒色土、下部は地山土の混じる灰色砂質土からなる。出土遺物は僅少であるが、弥生土器が認められ、当該期の遺構である可能性がある。

出土遺物（第 81 図 7）

7 は、弥生土器壺底部破片。胎土は、石英・角閃石・白色粒子・雲母を含み、色調は内面にぶい橙色、外面黄褐色を呈し、内外面ナデ調整である

6SK024（第 78 図）

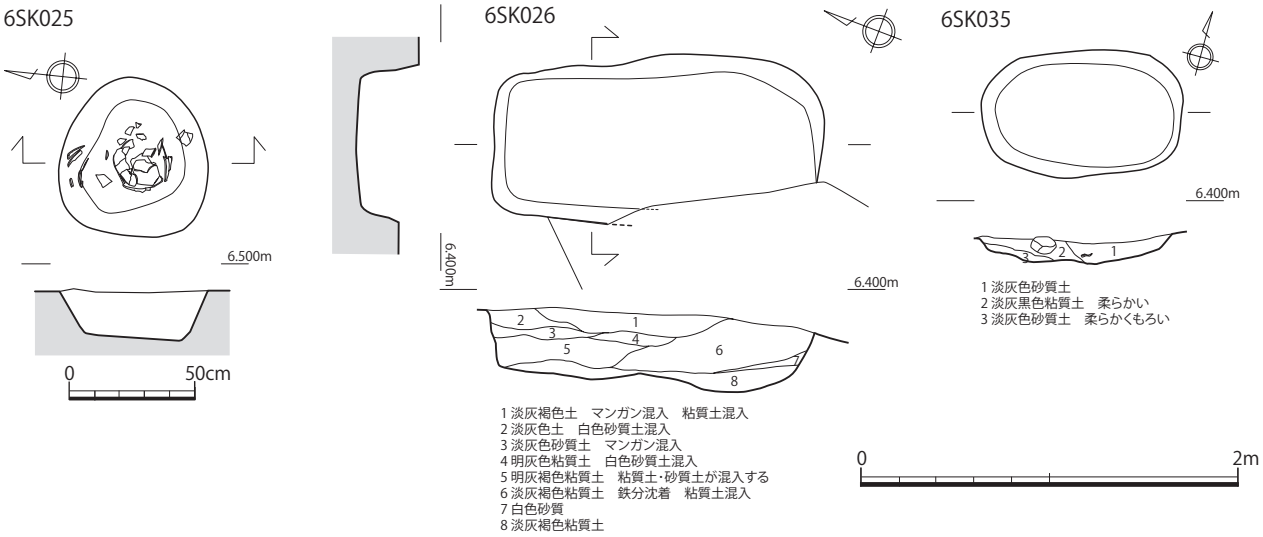
調査区南部で検出された土坑である。南西側が攪乱により切られているため全形を知り得ないが、長軸約 1.5m、短軸約 0.75m の不整な隅丸長方形状を呈し、検出面からの最大深は 0.45m である。埋土は灰褐色土を基調とした土である。形状や埋土は近くで検出された 6SK026 に類似しているため、6SK024 と類似した性格の遺構で時期も近接している可能性が考えられるが、出土遺物が全くないため推測の域を出ない。

6SK025（第 79 図）

調査区北西部で検出された土坑で、落ち込み 6SX029 を切って掘り込まれている。直径約 0.8m の略円形を呈し、検出面からの最大深は 0.2m である。埋土は黒色砂質土からなる。出土遺物から、古墳時代前期に位置づけられる。

出土遺物（第 81 図 8 ～ 10）

8 は、土師器小型丸底壺。胎土は、石英・長石・角閃石・雲母・白色粒子を含み、色調は、内面橙色、外面浅黄橙色を呈し、内外面ていねいなナデ調整である。9 は、弥生土器甕底部。胎土は、石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は、灰黄褐色、外面にぶい黄橙色を呈し、内外面ていねいなナデ調整である。時期は、弥生時代中期。底径 7.2 ㎝を測る。10 は、弥生土器甕底部。胎土は、石英・長石・角閃石・雲母・赤



第 79 図　大道 6 次出土土坑遺構図 2（1/30、1/40）

色粒子・白色粒子を含み、色調は、内外面橙色を呈し、内外面ナデ調整で、底径 7.8 ㎝を測る。

6SK026（第 79 図）

調査区南端部で検出された土坑もしくは土壙墓である。南西側が攪乱により切られているため全形を知り得ないが、長軸約 1.7m、短軸約 0.9m の隅丸長方形状を呈し、検出面からの最大深は 0.3m である。埋土は灰褐色の粘質土を基調とした土である。埋土からの出土遺物は、木製の竪櫛のみであり、帰属時期は不明である。

出土遺物（第 81 図 11）

11 は木製の竪櫛である。横 5.2 ㎝、縦 2.9 ㎝で、歯の長さは約 1.8 ㎝であり、体部は緩やかに湾曲している。剥落しているが、全体に黒漆が塗られていた可能性がある。

6SK034（第 75 図）

調査区北東部で検出された浅い土坑で、西側は攪乱に切られ、東側は調査区外に続くため、全形を確認できない。現状で、長軸 2.1m、短軸 1.0m、検出面からの最大深は 0.15m である。暗灰色砂質土を基調とする埋土である。出土遺物から、15 世紀以降に埋積したものと考えられる。

出土遺物（第 81 図 15 ～ 17）

15 は、青磁碗口縁部。口縁部内面に稜線を持たせる。色調はオリーブ灰色で、内外面とも釉が掛かる。16 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・石英・雲母・白色粒子を含み、色調は、内外面橙色を呈し、内面、外面ナデ調整である。

17 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 2 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・石英を含み、色調は、内面にぶい黄橙色、外面橙色を呈し、内面ハケメ後ナデ、外面ハケメ調整である。

6SK035（第 79 図）

調査区南端部で検出された浅い土坑で、長軸 1.05m、短軸 0.65m、検出面からの最大深は 0.15m である。灰色砂質土、灰黒色粘質土からなる埋土である。出土遺物から、17 世紀初頭以降に埋積したものと考えられる。

出土遺物（第 81 図 18・19）

18 は、染付皿口縁部で中国産の可能性があるものである。色調は、内面灰白色、外面明緑灰色を呈し、内外面に施釉。19 は、唐津皿。内面灰白色、外面にぶい橙色を呈し、内面は全面に、外面は、一部施釉。口径約 12 ㎝、底径約 5 ㎝、器高 3.9 ㎝を測る。

溝状遺構（SD）

6SD001（第 75 図）

調査区南部で検出された溝状遺構で検出された南北方向の溝状遺構で 6SD028 に切られている。幅約 0.6m、最大深は 0.3m で、埋土は黒褐色土を基調とする。出土遺物は僅少で、帰属時期は不明である。

出土遺物（第 81 図 1）

1 は、弥生土器下城式甕の口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は石英・角閃石・雲母を含み、色調は内外面黄褐色を呈し、内面ナデ外面ハケメ後ナデ調整である。

6SD003（第 75 図）

調査区南部で検出された溝状遺構で検出された南北方向の溝状遺構で 6SD028 に切られている。幅約 0.6 ～ 0.7m、最大深は 0.3m で、埋土は上層が黒褐色土、下層が淡灰色砂質土を基調とする。出土遺物は僅少で、帰

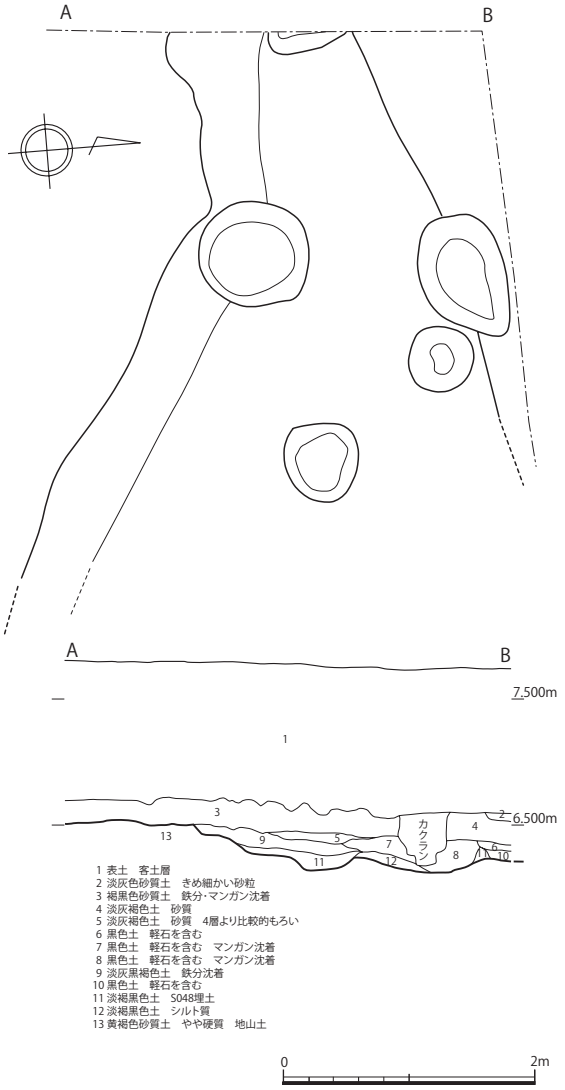
属時期は不明である。
出土遺物（第 81 図 2）
2 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。胎土は、石英・角閃石・赤色粒子を含み、色調は内面橙色、外面にぶい橙色を呈し、内外面ともミガキ調整である。

6SD027・28（第 75 図）
調査区南部で検出された溝状遺構で、いずれも、N-71°-E を指向しほぼ並行する。6SD027 は 6SD003 を切っている。6SD027 は幅 0.4 ～ 0.5 m、最大深 0.3 mである。6SD027 は、幅 0.35 ～ 0.5 mだが検出面からの最大深は 0.1m 程で非常に浅く、6SD035・026 に切られ、これよりも西では検出できなかった。いずれも埋土は黒灰色砂質土からなる。出土遺物から、18 世紀代に位置づけられる
出土遺物（第 81 図 12 ～ 14）
12 は 6SD027 から出土したもので、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、石英・角閃石・雲母・白色粒子を含み、色調は、内面鈍い黄橙色、外面にぶい黄褐色を呈し、内面ハケメ後ナデ、外面ハケメ調整である。13・14 は 6SD028 から出土した遺物である。13 は、備前焼き擂鉢底部。胎土は、石英・黒色粒子を含み、色調は内面灰褐色、外面にぶい赤褐色を呈し、内面に擂り目が認められる。14 は、京焼風陶器碗。色調は内外面灰白色を呈し、底部見込みまで釉が掛かる。畳付けに砂が付着している。底径は、5 ㎝を測る。13・14 とも時期は江戸時代の所産。

性格不明遺構・落ち込み（SX）
6SX029（第 80 図）
調査区北西部で検出された落ち込みで、人為的な掘り込みとは考えられず自然に形成されたものと考えられる。埋土は上部が黒色砂質土、下部は黒褐色シルトを基調とする。緩やかに北側に向かって落ち込んでおり、北側の試掘調査では安定地盤が認められず、植物遺体を含有する黒灰色粘質土からなる低湿地が広がっていることが確認されていることから、そのまま北へ向かって標高が下がって低湿地へ移行しているものと考えられる。埋土中からは古墳時代前期の土師器類が出土しているため、この時期までに埋積したものと考えられる。
出土遺物（第 82 図、第 83 図）
1 は、土師器鉢。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・白色粒子を含み、色調は内外面明赤褐色を呈し内面ミガキ、外面ハケメ後ナデ調整で、口径約 13.9 ㎝、器高約 5 ㎝を測る。2 は、土師器鉢。胎土は、角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面にぶい黄橙色を呈し内面ナデ、外面回転ナデ調整で、口径約 12 ㎝を測る。3 は、土師器小型丸底壺。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・白色粒子を含み、色調は内外面明赤褐色を呈し内面ミガキ、外面ミガキ調整。4 は、土師器小形丸底壺。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子を含み、色調は内外面にぶい燈色を呈し、内面ナデ、外面ヘラミガキ調整。5 は、土師器小形丸底壺。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面明赤褐色を呈し、内面ハケメ後ミガキふうナデ、外面ハケメ後ヘラミガキ調整で、内外面指頭圧痕が認められる。口径約 11.1 ㎝を測る。ハケメ単位（9 本／ cm）。6 は、土師器小形壺。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・白色粒子を含み、色調は、内外面燈色を呈し、内面ナデ、外面ていねいなナデ調整で、外面底部に黒斑が認められる。
器高約 8.2 ㎝を測る。7 は、土師器小形丸底壺。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面明赤褐色を呈し、内面ミガキ風ナデ、外面ハケメ後ミガキ調整。8 は、土師器器台。外面の稜線が特徴的である。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面明赤褐色を呈し、内面外面ミガキ調整。脚部内面はハケメ後ナデ調整。口径 11.8 ㎝、底径約 13.6 ㎝、器高 10cm を測る。器形

は、古墳時代初頭の時期に兵庫県淡路島を中心に出土する淡路型器台に類似する。淡路型器台は、庄内式期に盛行する器台である。器形が本来より少し小ぶりな事等を考えると、この器台は、布留 1 式の時期と考えて齟齬はないと思われる。9 は、土師器高坏。胎土は石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面橙色を呈し、内面ミガキ風ナデ、外面ハケメ後ミガキ、脚部内面ハケメ調整。底径約 11.6cm を測る。10 は、土師器高坏。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面橙色を呈し、内外面ヘラケズリ後ミガキ、脚部内面ナデ調整。底径約 10.2cm を測る。11 は、土師器鉢口縁部。頸部に断面三角形の刻み目突帯を 1 条巡らす。胎土は、石英・角閃石・赤色粒子を含み、色調は内外面にぶい橙色を呈し、内面ハケメ・ヘラミガキ、外面ハケメ調整。ハケメ単位（9 本／ cm）12 は、土師器小形甕。胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含み、色調は内外面にぶい橙色を呈し、内面ハケメ後指押さえ、外面ハケメ後ケズリ、調整。口径約 12cm を測る。13 は、土師器甕。

胎土は、石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内面暗灰黄色、外面にぶい橙色を呈し、内面ナデ、外面ハケメ調整。口径約 21.8cm を測る。ハケメ単位（9 本／ cm）14 は、土師器長頸壺。胎土は石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含み、色調は内外面橙色を呈し、内外面ハケメ調整、内面底部に工具痕、頸部に指頭圧痕が認められる。口径 19.6 ㎝、器高 30.1cm を測る。ハケメ単位（7 ～ 8 本／㎝）15 は、土師器甕。口縁部が逆「く」の字状に段を持って外反している。器形は吉備系の特徴を有している。胎土は石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子を含み、色調は内外面橙色を呈し、内面ケズリ、外面ハケメ後ナデ調整。口径 31.2 ㎝、器高 27.6cm を測る。ハケメ単位（9 本／ cm）

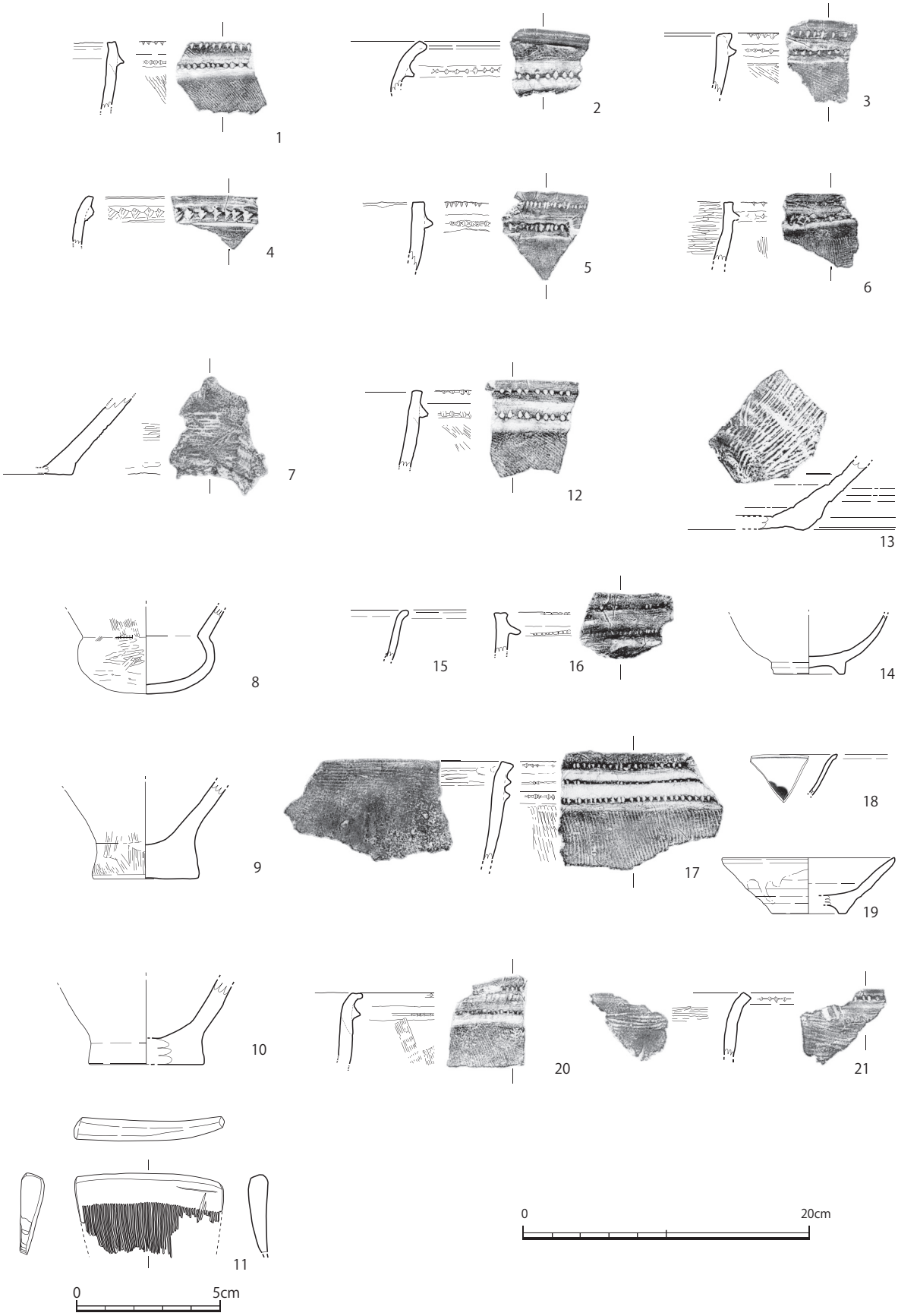


第 80 図　6SX029 平面・土層断面図（1/40）

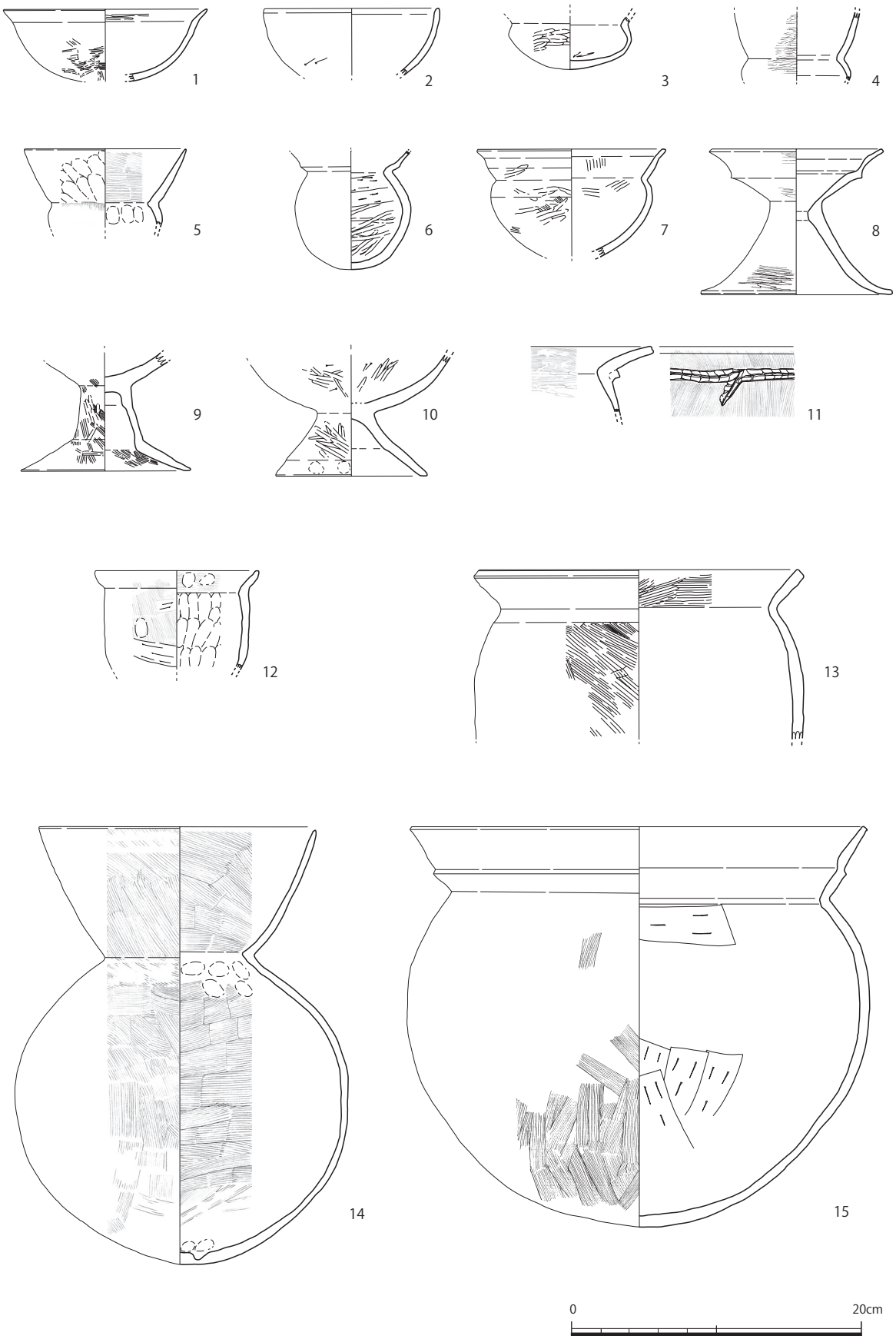
16 は、弥生土器下城式壺胴部破片。胎土は、石英・角閃石・雲母を含み、色調は、内外面灰褐色を呈し、内面ミガキ、外面線刻後ミガキ調整。17 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・石英・雲母を含み、色調は、内外面にぶい褐色を呈し、内面ナデ、外面ハケメ後ナデ調整である。18 は、企救型甕の口縁部で、古代の所産である。19 は、砂岩製の砥石。4 面ともに擂り面が認められるが、その内 2 面は砥石製形時のものと考えられる。最大長 9.6cm、最大幅 3.3cm、重量 100g を測る。

6SX037（第 75 図）

調査区北端部で検出された浅い落ち込みで、東西約 3.5m で遺構の肩は入り組んだ不定形となっており、北へ向かって浅く落ち込んでいる。6SX029 と同じく黒色砂質土で埋積しており、本来同一の遺構であったものかも



第 81 図　第 6 次調査出土遺物 1（1/4、1/2）



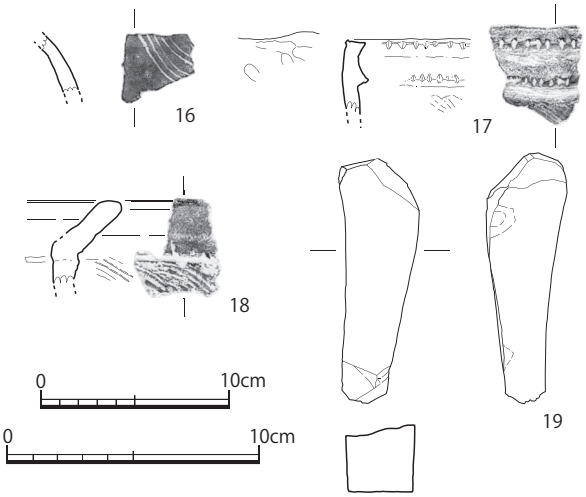
第 82 図　第 6 次調査出土遺物 2（1/4）

しれない。

出土遺物（第 81 図 20・21）

20 は、弥生土器甕口縁部。口縁部直下に刻目突帯を 1 条巡らす。口唇部にも同じ道具による刻目が入る。胎土は、角閃石・石英・雲母を含み、色調は、内外面にぶい黄燈色を呈し、内面ナデ、外面ハケメ後ナデ調整である。

21 は、表採遺物。弥生土器甕口縁部。口唇部刻目が入る。胎土は、角閃石・石英・雲母を含み、色調は、内外面にぶい褐色、外面灰褐色を呈し、内面ハケメ後ナデ、外面ハケメ調整である。



第 83 図　第 6 次調査出土遺物 3（1/4、1/3）

4　小結

第 6 次調査地点では、遺構面の多くが攪乱によって破壊されており、遺構の残存状態は不良であった。そうした中にあって調査区東半を中心に多くの土坑が検出され、そのうち最も多く見られるものは、黒色～黒褐色系の埋土で埋積しており、この埋土を有するものは平面形が円形～不整円形を呈するものが多く見られる。6SK002、004、007、009、015、020 がこれにあたり、報告できなかったが 6SK013、022、043、044 なども同様のものである。大きさは最も大きい 6SK015 は直径約 1.8m、深さ 0.6m に達するが、6SK020 のように小型のものは直径 0.7m、深さ 0.2m ほどである。これらの遺構群は 6SK009 周辺では切り合いを有しながら繰り返し掘られている場合も見られる。出土遺物は非常に少ないが、出土遺物の中には、いわゆる下城式の弥生土器甕あるいはこれとセットになる壺が含まれており、これよりも新しい時期の遺物が全く含まれていないことが注意される。したがって、資料の少なさから、時期比定の根拠としては不十分ながら、弥生時代前期末～中期にかけての遺構である可能性が考えられるのである。

当該期の類似した遺構が検出されている隣接地域の遺跡としては東田室遺跡がある。東田室遺跡は大道遺跡群の北西側にあり、毘沙門川右岸に形成された微高地上に形成された遺跡である。ここでは本調査地点と類似した弥生時代前期末～中期の土坑が多く検出されており、貯蔵穴群として評価されている。東田室遺跡では深さが 80 ㎝を超える深いものもあるが、後世の削平のため貯蔵穴本来の深さが保持されているものはほとんど見られず、多くは本調査地点と同じく浅いものである。こうした事例からみると、本調査地点の先述した特徴を有する土坑群についても、当該期の貯蔵穴群と考えることが可能である。本調査地点で検出された同様の遺構のほとんどが深さ 0.4m 以下であったことは、後世の削平の結果であるとして理解できる。東田室遺跡においては調査地点の東側一帯の微高地上に集落域が想定されているが、第 6 次調査地点においても同様に周辺地域において当該期の集落が形成されていた可能性が考えられよう。

いずれにせよ、今回検出された遺構群は大道遺跡群において検出された確実な遺構のうちで最も古いものと位置づけられ、弥生時代前期末には集落が形成されていた蓋然性が高まったといえる。

第 4 章　まとめ

大道遺跡群 4・5・8・12 次調査地点における遺構の時代別変遷と遺物について

今回報告した調査のうち、大道遺跡群第 4 次、第 5 次、第 8 次、第 12 次調査区はお互いに隣接した調査区であり、相互に関連性を有する遺構群が検出されている。もっとも、これらの調査の後、平成 18・19 年度には第 4 次調査区の南側隣接地（第 20 次調査）や第 4・5 次調査の北側隣接地（第 21 次・23 次調査）で発掘調査が実施されており、これらの調査結果が整理された後にこの地点における遺構全体の評価ができる条件がそろうことになる。しかし、報告書刊行作業上の問題により、全ての整理を待つことなく、逐次整理が終了したものから報告書を刊行している事情から、上記のような本来望ましい方法をとることが難しい。そこで、今後の整理作業を進める上での基礎作業とする意味で、現時点での第 4 次、第 5 次、第 8 次、第 12 次調査区検出遺構群の時代別変遷の概要をまとめておきたい。

弥生時代後期～終末期

今回の報告分の調査地点では該当する遺構は無いが、第 23 次調査区で井戸跡 2 基が知られており、後述する環濠の掘削時期がこの時期まで遡る可能性も考えられる。当該調査地点に初めて遺構がつくられる時期と思われる。

古墳時代前期

井戸跡が多く検出されており、その廃絶時期は概ね前期前葉～中葉までの時期である。また第 4 次調査で当該期の可能性が考えられる竪穴遺構も 2 基検出され、第 5 次調査で検出された 5SX044 もこれにあたるかもしれない。これらの遺構は概ね第 23 次調査で検出された環濠と推定される大溝遺構と関連し、環濠集落を構成する遺構群と考えられ、前期中葉と思われる大溝廃絶時期までに全て廃絶しているようである。後世の削平が著しいために、深度のある遺構のみが残存している状態と考えられる。

古墳時代後期

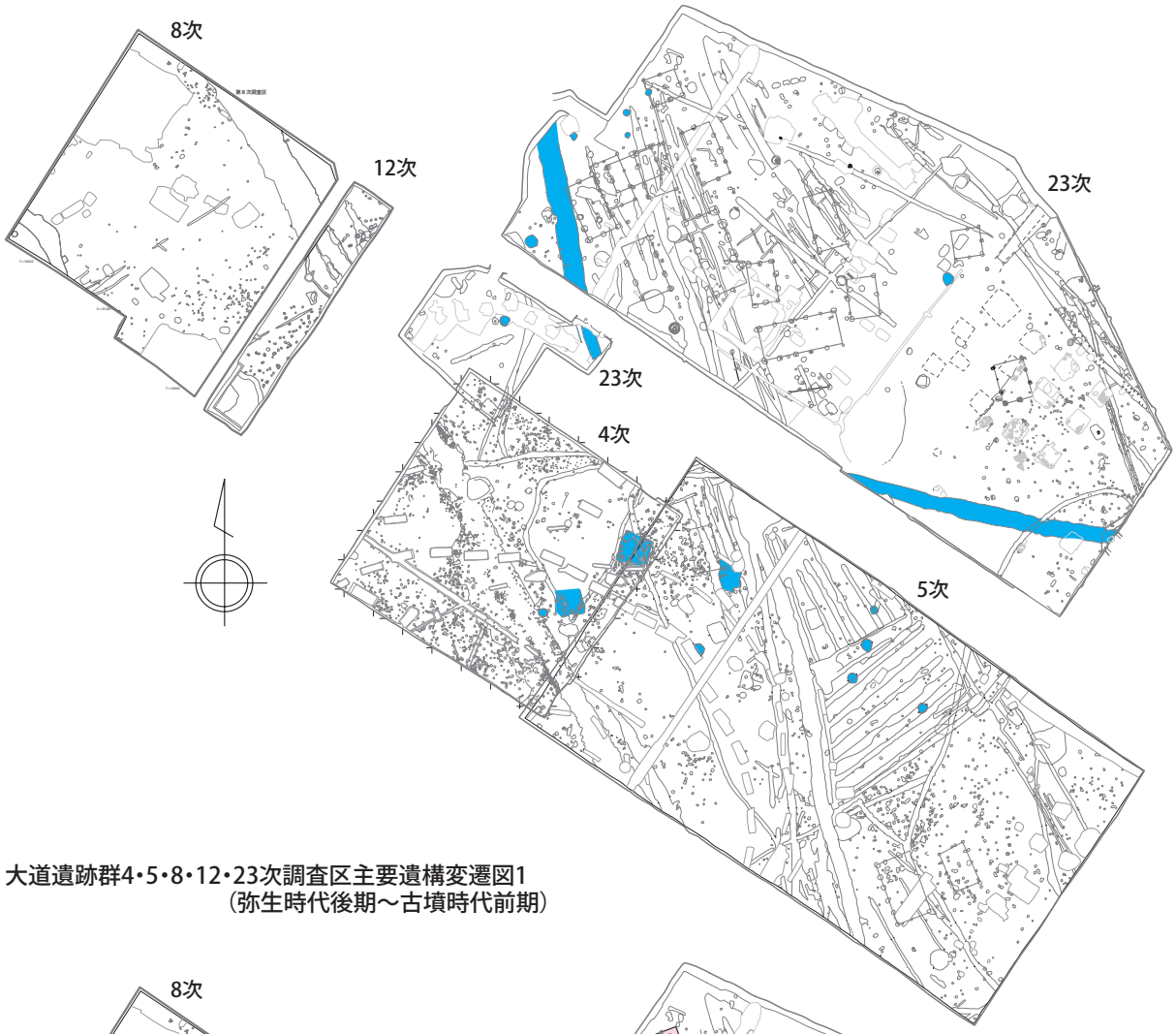
後述する古代の大溝からは古墳時代後期の遺構は検出されていないが、第 4・5 次調査で検出された古代の大溝から、山口湾沿岸で盛行した美濃ヶ浜式と考えられる製塩土器が出土している。これまで大道遺跡群で知られていた古墳時代の製塩土器はいずれも古墳時代前期の備讃瀬戸系製塩土器であった。古墳時代後期のものとしては、若宮八幡宮遺跡において、大阪湾岸産の製塩土器が出土した例が知られているが、今回の発見により西瀬戸内の製塩土器が当該期に流入していることが新たに明らかになり、今後伴出する遺構が検出されることが期待される。

古代（奈良時代）

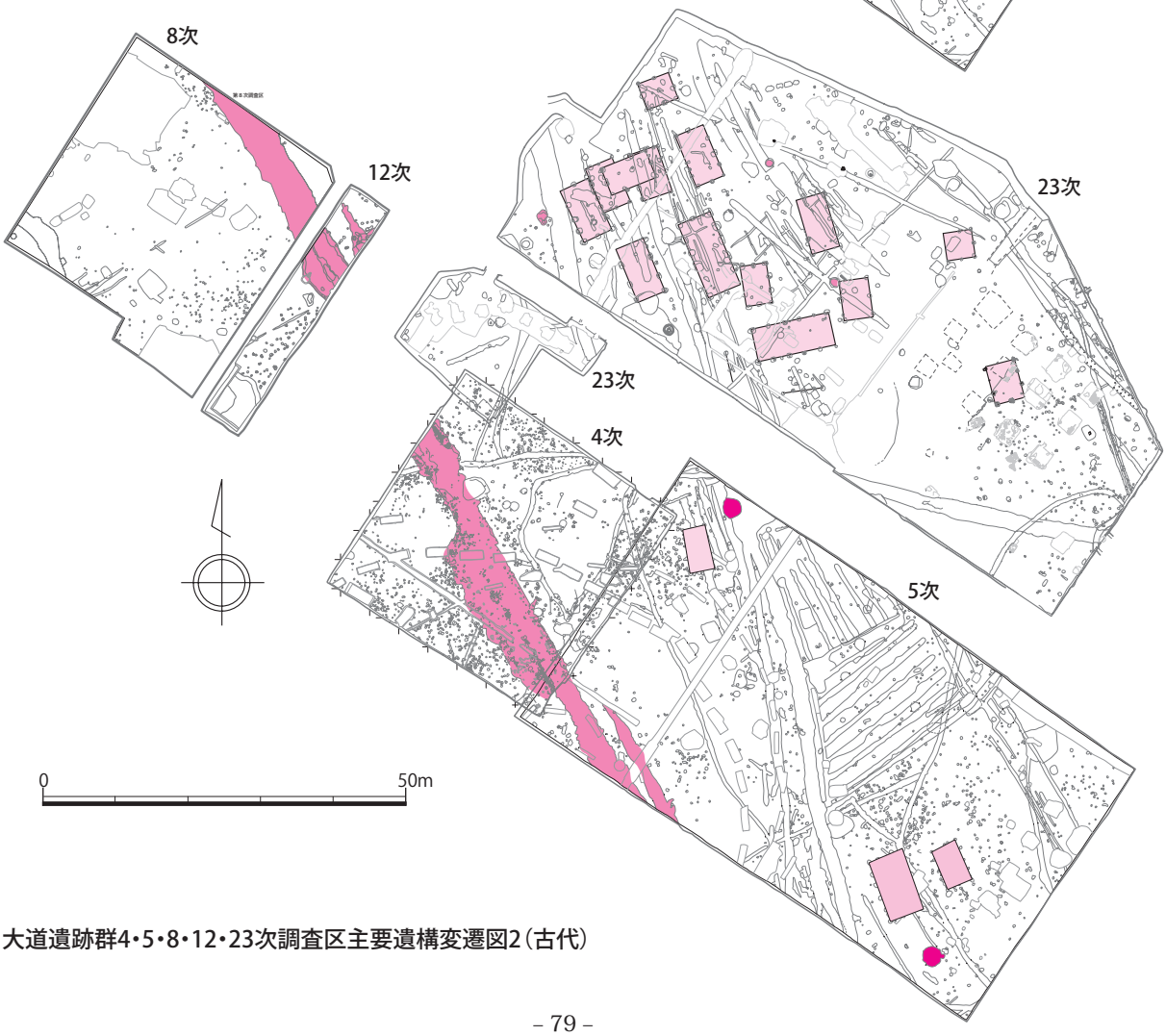
8 世紀前半から中頃であり、第 5 次調査において 2 基の井戸跡が当該期に比定される。このうち 5SE140 は 8 世紀中頃に比定されるもので、付近で検出された 5SB002・003 の 2 基の掘立柱建物跡もこの時期につくられた可能性が高い。また井桁組みの井戸枠を有する 5SE048 は 5SE140 と同時期かむしろ先行する可能性もある。近くに所在する掘立柱建物は 5SB001 および第 23 次調査区で検出された建物群の一部がこの時期につくられたものを含んでいる可能性が高いと考えられる。遺構検出時に出土したものではあるが奈良三彩壺が出土しており、当該期に位置づけられる。寺院あるいは官衙遺跡において出土する傾向の強い遺物であることから、後述する官衙遺構の成立もこの時期に遡る可能性が高い。また、大溝遺構もこの時期に掘削されていた可能性がある。

古代（平安時代初頭）

8 世紀末～ 9 世紀前半頃で、第 4・5・8・12 次調査区で検出された大溝遺構が機能し、廃絶する時期である。



第84図 大道遺跡群4・5・8・12・23次調査区主要遺構変遷図1
（弥生時代後期～古墳時代前期）



第85図 大道遺跡群4・5・8・12・23次調査区主要遺構変遷図2（古代）

この時期の掘立柱建物群は第 23 次調査区において 16 棟検出された建物の多くが該当すると思われ、官衙遺構として評価されている。またこれらに伴うと考えられる井戸跡も第 23 次調査区において 3 基検出されている。掘立柱建物群については、その方位により 3 グループ以上に分類することが可能であるが、先述したように奈良時代に遡るものがこの中に含まれていると考えられる。大溝については、道路跡ではないかとの意見もあるが、水流の痕跡と評価できる土層堆積状況からみて、水路として機能したものと考えておきたい。官衙と推定される建物群の一部と方位が合致しているとみられることから、掘立柱建物群の成立にあわせて掘削された可能性が高いと考えられる。

中世・近世

明確に中世に比定できる遺構はほとんど無く、また遺物も遺構検出時に出土した陶磁器類や土器類があるのみである。唯一、8 次調査区において検出された土坑 8SK011 があり、完形品の京都系土師器が出土していることから土壙墓の可能性がある。中世にどのような土地利用が行われていたか発掘調査では明らかになっていない。

近世には、17 世紀前半代に実施される初瀬井路の整備により、概ね微高地上も水田化されたものと考えられる。当該期には、水溜遺構と推定される遺構がつくられているが、地下水位の高い環境にあるこの地域の微高地にあって、排水と灌漑両面の機能を有した可能性が考えられる。大道遺跡群において最近実施された調査においても複数地点で同様な遺構が検出されており、この地域に通有にみられる施設であったと考えられる。

これまでの発掘調査により、当該調査地点のみでなく、大道遺跡群全体として古墳時代前期および平安時代初頭（8 世紀末～ 9 世紀前半）の遺構・遺物が多いことが知られていたが、今回の調査によって新たに奈良時代の遺構が確実に存在することが確認され、第 23 次調査地点において検出された官衙跡と評価される掘立柱建物群の初現が、8 世紀中頃ないし前半にまで遡る可能性が高いことが確認されたことは大きな成果といえる。

今後、周辺調査地点、特に第 23 次調査の整理作業を着実に推進し、遺跡全体の詳細な評価が行えるように努力したい。

第2表　大道遺跡群第4次調査出土遺物観察表

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第9図1	4SE037	土師器	壺口縁～頸部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	明赤褐	ナデ ハケメ後ナデ ケズリ	ナデ ハケメ	(19.2)	(6.5)	–	–	内面ハケメ単位(10本/cm) 外面ハケメ単位(10本/cm)・(7本/cm)
第9図2	4SE037	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	にぶい橙	ナデ・ケズリ・指オサエ	ハケメ	–	(14.7)	(19.9)	(2.6)	内外面にススス付着 ハケメ単位(9本/cm)
第9図3	4SE037	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐	にぶい褐	ナデ ハケメ 指オサエ	ナデ ハケメ ケズリ後ハケメ後ナデ	18.0	25.9	21.5	–	内外面にススス付着 ハケメ単位(9本/cm)
第9図4	4SE037	土師器	甕口縁部～頸部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰	にぶい橙	ハケメ ハケメ後指オサエ	ナデ ハケメ	(17.0)	(7.1)	–	–	内面に黒斑あり ハケメ単位(11本/cm)
第12図1	4SK026	土師器	甑	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・灰色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ ケズリ	(20.4)	(14.4)	–	–	
第12図2	4SK026	土師器	甑	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙	橙	ナデ	ナデ ケズリ後ナデ	(27.4)	(11.7)	–	–	内面に黒斑あり
第13図1	4SK033	須恵器	蓋	石英	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	–	–	–	
第13図2	4SK033	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ 回転糸きり?	11.6	3.7	–	6.6	
第13図3	4SK033	黒色土器	碗	赤色粒子・白色粒子・角閃石	黒	橙	黒色ミガキ	ミガキ 指頭圧痕	–	–	–	–	
第13図4	4SK033	土師器	坏	角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(11.6)	–	–	–	
第13図5	4SK033	土師器	坏底部	石英・角閃石・赤色粒子・雲母	灰白	浅黄橙	ナデ	ナデ	–	–	–	(7.8)	
第13図6	4SK033	土師器	坏	石英・赤色粒子・白色粒子・雲母	橙	明赤褐	ナデ	ナデ					
第13図7	4SK033	土師器	坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	赤橙	赤橙	ナデ	ナデ	–	–	–	–	
第13図8	4SK033	土師器	鉢	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	灰黄褐	褐灰	ナデ	ナデ	–	–	–	–	
第13図9	4SK033	土師器	甕口縁部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子・長石	橙	橙	ハケ目	ナデ	–	–	–	–	ハケメ単位(　本/cm)
第13図10	4SK033	土師器	甕口縁部	角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	黄橙	ナデ	ナデ	–	–	–	–	
第13図11	4SK033	土師器	甕口縁部	角閃石・白色粒子・石英・雲母	灰黄褐	明褐	ナデ 指オサエ	指頭圧痕	–	–	–	–	
第13図12	4SK033	瓦	瓦	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	布目痕	格子目タタキ					
第15図1	4SD003 G6最下層	緑釉陶器	坏	石英	淡黄緑色	黄緑色	回転ナデ	回転ナデ	(10.1)	3.0		(6.0)	底部糸切り
第15図2	4SD003	灰釉陶器	皿		淡青緑色	淡青緑色	回転ナデ	回転ナデ	(17.8)	3.9	–	(7.8)	
第15図3	4SD003 砂層	須恵器	坏	長石・石英・角閃石・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	–	(3.0)	(15.1)	–	
第15図4	4SD003 砂層	須恵器	坏	長石・石英・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	(14.5)	(4.0)	(16.9)	–	
第15図5	4SD003	須恵器	坏口縁部	石英	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	–	–	–	
第15図6	4SD003	須恵器	碗底部	石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	–	(2.8)	–	(9.4)	
第15図7	4SD003	須恵器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐	にぶい黄褐	回転ナデ ナデ	回転ナデ	–	(3.0)	–	(9.5)	
第15図8	4SD003	須恵器	蓋	角閃石・白色粒子	灰白	灰白	ナデ	回転ナデ	–	–	–	–	
第15図9	4SD003	須恵器	坏蓋	長石・石英・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	つまみ径2.7	(1.8)	–	–	
第15図10	4SD003	須恵器	高坏坏部	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	–	(2.4)	–	–	
第15図11	4SD003	須恵器	高坏受部	長石・石英・黒色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(2.0)	–	–	
第15図12	4SD003	須恵器	高坏受部	石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	灰	灰	ナデ 回転ナデ	回転ナデ	–	(2.4)	–	–	
第15図13	4SD003	須恵器	高坏脚部	長石・石英・白色粒子	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(2.5)	–	–	
第15図14	4SD003	須恵器	高坏脚部	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(5.2)	–	(10.1)	
第15図15	4SD003	須恵器	鉢底部	長石・石英・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	–	(2.0)	–	(6.7)	
第15図16	4SD003	須恵器	？底部	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	–	(3.5)	–	8.0	
第15図17	4SD003	須恵器	平瓶胴部	白色粒子・石英	灰	暗灰	回転ナデ	回転ナデ	–	–	–	(11.0)	
第15図18	4SD003	須恵器	鉢	長石・石英・白色粒子	褐灰	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	(20.5)	(4.9)	(22.5)	–	
第15図19	4SD003	須恵器	長頸壺口縁部	長石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	(8.7)	(4.8)	–	–	内面に自然釉あり
第15図20	4SD003	須恵器	長頸壺頸部～体部	石英・赤色粒子・白色粒子	灰	オリーブ灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(7.8)	(13.4)	–	外面にまばらに自然釉がかかる
第15図21	4SD003	須恵器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(9.9)	(19.2)	(11.7)	
第15図22	4SD003	須恵器	長頸壺頸部	石英・雲母・赤色粒子・白色粒子・角閃石	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(9.6)	(12.4)	–	外面に凹線2本あり
第15図23	4SD003	須恵器	長頸壺胴部	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(9.0)	(21.3)	–	
第15図24	4SD003	須恵器	壺	石英・長石・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(16.8)	(19.3)	(10.5)	底部糸切り痕あり 外面施釉あり
第15図25	4SD003	須恵器	壺	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ ナデ	回転ナデ タタキ	–	(16.1)	(31.7)	(13.6)	外面に自然釉あり
第15図25	4SD003	須恵器	甕	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ タタキ	回転ナデ タタキ	(19.8)	(4.2)	(28.5)	–	
第16図26	4SD003	須恵器	甕	長石・黒変化粒子	灰白	灰白	回転ナデ あて具痕(同心円)	回転ナデ タタキ後カキ目	23.4	(42.3)	–	–	内面口縁部自然釉あり
第17図27	4SD003 砂層	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	橙	内黒ミガキ	回転ナデ 回転ヘラ切り	–	(1.6)	–	7.6	
第17図28	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	黒	にぶい黄橙	ミガキ	回転ナデ	–	(2.3)	–	(8.4)	
第17図29	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒	にぶい黄橙	内黒ミガキ	回転ナデ 回転ヘラ切り	–	(2.0)	–	6.8	
第17図30	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黒	橙	内黒ミガキ	回転ナデ	–	(1.9)	–	(7.4)	
第17図31	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黒	にぶい黄褐	内黒ミガキ	回転ヘラケズリ 回転ナデ 回転ヘラ切り	–	(3.4)	–	(7.1)	
第17図32	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黒	橙	内黒ミガキ	回転ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	–	(2.5)	–	7.4	
第17図33	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	黒	にぶい橙	内黒ミガキ	ヨコナデ	–	(1.9)	–	(8.6)	
第17図34	4SD003	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	黒	灰黄褐	内黒ミガキ	回転ナデ	–	(1.9)	–	(8.8)	
第17図35	4SD003	黒色土器	碗口縁部	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黒	橙	黒色ミガキ	ヨコナデ 指オサエ	(14.9)	(4.8)	–	–	

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第17図36	4SD003 砂層	黒色土器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	黄灰	にぶい黄褐	ミガキ	ヨコナデ	–	(2.7)	–	(9.4)	
第17図37	4SD003 砂層	黒色土器	碗	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黒	にぶい赤褐	内黒ミガキ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.2)	5.8	–	6.8	
第17図38	4SD003	黒色土器	碗口縁部	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒	黄褐	内黒ミガキ ヨコナデ	ヨコナデ ミガキ	(14.8)	(4.2)	–	–	
第17図39	4SD003 砂層	土師器	坏蓋	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙	浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	(13.6)	(2.2)	–	–	
第17図40	4SD003	土師器	蓋	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	(13.7)	(1.8)	–	–	
第17図41	4SD003	土師器	蓋	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	明赤褐	明赤褐	回転ナデ	回転ナデ ヘラケズリ	(13.7)	1.9	–	(6.9)	
第17図42	4SD003	土師器	蓋	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	ミガキ	回転ナデ	–	(3.1)	–	(6.2)	輪状つまみ
第17図43	4SD003	土師器	坏	石英・角閃石・赤色粒子	明赤褐	明赤褐	ナデ	ナデ	(12.8)	–	–	(7.1)	
第17図44	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ 回転ヘラ切り	13.3	3.6	–	7.0	
第17図45	4SD003 砂層	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ヘラ切り	13.2	4.1	–	6.5	
第17図46	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.3)	3.4	–	(6.7)	
第17図47	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.3)	3.6	–	(6.0)	
第17図48	4SD003	土師器	坏	長石・雲母・石英・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.4)	4.2	–	6.8	
第17図49	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(12.5)	3.5	–	5.5	
第17図50	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	(13.5)	3.1	–	(8.6)	
第17図51	4SD003 砂層	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ヘラ切り	13.4	4.0	–	6.6	
第17図52	4SD003	土師器	坏口縁部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ ヘラミガキ	回転ナデ	(14.5)	(3.2)	–	–	
第17図53	4SD003 砂層	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ ナデ	–	(2.5)	–	(6.9)	
第17図54	4SD003 砂層	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい褐	にぶい褐	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(11.6)	3.5	–	6.8	
第17図55	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	13.7	4.7	–	(7.0)	
第17図56	4SD003 砂層	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.2)	3.4	–	(9.2)	
第17図57	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ヘラケズリ	(14.0)	4.0	–	(9.5)	
第17図58	4SD003	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	(13.7)	5.0	–	–	
第17図59	4SD003	土師器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ?	回転ナデ	–	(1.5)	–	(8.2)	
第17図60	4SD003	土師器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	回転ナデ	–	(1.6)	–	(7.3)	
第17図61	4SD003	土師器	坏(碗?)	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ 指ナデ	回転ナデ ヘラケズリ	(14.4)	(5.2)	–	–	
第17図62	4SD003	土師器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	–	(4.6)	–	8.0	底部を穿孔
第17図63	4SD003	土師器	碗	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	(13.8)	5.3	–	(6.5)	
第17図64	4SD003 砂層	土師器	碗	長石・石英・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ	15.4	5.7	–	8.6	
第17図65	4SD003	土師器	碗底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ヘラ切り	–	(3.5)	–	7.0	
第17図66	4SD003 H9砂層	土師器	高坏										
第17図67	4SD003	土師器	甕	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰	にぶい橙	ヨコナデ ケズリ後ナデ	ヨコナデ ケズリ	(15.0)	(8.4)	(16.0)	–	内面にスス付着
第17図68	4SD003	土師器	企救型甕	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐	にぶい褐	ヨコナデ ハケ後板ナデ	ヨコナデ ハケメ	(22.0)	(6.8)	(22.6)	–	ハケメ単位(6本/cm)
第17図69	4SD003	土師器	企救型甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ハケメ	(23.5)	(10.3)	–	–	ハケメ単位(9本/cm)
第17図70	4SD003	土師器	企救型甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	灰黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ	(23.2)	(7.2)	–	–	ハケメ単位(5本/cm)
第18図71	4SD003	土師器	企救型甕	石英・長石・雲母・赤色粒子				ヨコナデ ハケメ					
第18図72	4SD003	土師器	企救型甕	石英・長石・雲母・赤色粒子				ヨコナデ ハケメ					
第18図73	4SD003	土師器	甑把手	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白	浅黄橙		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図74	4SD003	土師器	甑把手	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	明赤褐		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図75	4SD003 砂層	土師器	甑把手	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英・雲母	浅黄橙	橙		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図76	4SD003	土師器	甑把手	角閃石・赤色粒子	灰白	灰白		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図77	4SD003 最下層	土師器	甑把手	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・雲母	にぶい黄橙	にぶい黄橙		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図78	4SD003 砂層	土師器	甑把手	石英・長石・角閃石・雲母	黒褐	浅黄橙		ナデ 指オサエ	–	–	–	–	
第18図79	4SD003 砂層	土師器	甑底部	石英・角閃石・赤色粒子・長石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	–	–	–	–	
第18図80	4SD003	土師器	鞴羽口	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	灰白	ナデ	ナデ	幅(4.3)	(5.8)	厚み(2.1)	–	酸化還元部あり
第18図81	4SD003	瓦	平瓶	角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙	灰黄褐	布目痕	格子タタキ	–	–	–	–	
第18図82	4SD003	土製品	土錘	角閃石・白色粒子		橙		ナデ 指オサエ					孔径0.4cm、長さ3.8cm、幅1.4cm、重さ6.4g
第18図83	4SD003	土製品	土錘	角閃石・白色粒子		灰黄褐		ナデ 指オサエ					孔径0.45cm、長さ3.55cm、幅1.35cm、重さ6.8g
第18図84	4SD003	土製品	土錘	角閃石		黒		ナデ 指オサエ					孔径0.4cm、長さ3.65cm、幅1.2cm、重さ5.5g
第18図85	4SD003	土製品	土錘	角閃石		オリーブ黒		ナデ 指オサエ					孔径0.6cm、長さ3.4cm、幅1.75cm、重さ9.8g
第18図86	4SD003	土製品	土錘	角閃石・白色粒子		明赤褐		ナデ 指オサエ					孔径0.55cm、長さ3.7cm、幅1.5cm、重さ7.6g
第18図87	4SD003 砂層	土製品	土錘	石英		にぶい黄橙		ナデ 指オサエ					孔径1*0.8cm、長さ4.45cm、幅1.75cm、重さ13.9g
第18図88	4SD003	土製品	土錘	角閃石		浅黄橙		ナデ 指オサエ					孔径0.65cm、長さ4.8cm、幅1.8cm、重さ16.6g
第18図89	4SD003	土製品	土錘		明褐色			ナデ					孔径0.7cm、長さ3.5cm、幅3.2cm

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第18図90	4SD003	土製品	土錘		黒褐色			ナデ					孔径0.4cm、長さ2.7cm、幅1.5cm
第18図91	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	(4.4)	3.1	(4.6)	−	外面に黒斑あり
第18図92	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・雲母・角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	灰白	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	4.5	2.5	−	−	外面に黒斑あり
第18図93	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	−	(3.2)	−	−	
第18図94	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	(5.0)	(3.1)	(5.6)	−	
第18図95	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	黄灰	灰黄	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	4.0	2.6	4.7	−	内外面に黒斑あり
第18図96	4SD003	土師器	ミニチュア土器	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰白	灰白	指ナデ・指オサエ	指ナデ・指オサエ	(6.3)	4.6	(6.7)	−	外面に黒斑あり
第18図97	4SD003	土師器	台付鉢脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	ミガキ ナデ	ナデ 指オサエ	−	(5.0)	−	−	円形透かし？4個あり
第18図98	4SD003	土師器	甕口縁部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ヨコナデ	(20.7)	(5.5)	−	−	
第18図99	4SD003	土師器	高坏脚部	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	にぶい橙	ナデ ハケメ	ハケメ後ナデ	−	(6.0)	−	−	ハケメ単位(8本/cm) 円形透かし4ヶ所 円盤充填
第18図100	4SD003	土師器	甕口縁～頸部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	褐灰	にぶい黄橙	ナデ ヘラケズリ	ナデ	(15.4)	(3.2)	−	−	
第18図101	4SD003	土師器	複合口縁壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(21.0)	−	−	−	
第18図102	4SD003	弥生土器	壺底部	石英・長石・角閃石・雲母	灰白	灰白	指オサエ	ハケメ後ナデ	−	−	−	(7.0)	
第18図103	4SD003 砂層	土師器	壺底部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰赤	赤	ナデ	指オサエ・ナデ	−	(3.2)	−	(4.0)	貼付輪高台
第18図104	4SD003	土師器	壺底部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐	浅黄橙	ナデ	ナデ 指オサエ	−	(4.4)	−	4.4	
第19図105	4SD003 H9砂層	土師器	製塩土器	角閃石・長石・雲母・石英・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ヨコナデ ナデ 指オサエ	−	5.0	−	5.6	
第19図106	4SD003 H9砂層	土師器	製塩土器	石英・赤色粒子	明褐	明褐		指オサエ ナデ	−	3.5	−	(4.6)	
第19図107	4SD003 H9砂層	土師器	製塩土器	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明褐	明褐		指オサエ	−	3.3	−	(8.2)	
第19図108	4SD003 H10砂層	土師器	製塩土器	角閃石・長石・石英・赤色粒子	淡褐	淡褐		指オサエ ナデ	−	2.4	−	−	
第19図109	4SD003	土師器	製塩土器？	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐	褐	ナデ	指オサエ 板ナデ	−	(4.4)	−	−	
第21図1	4SD009	黒色土器	碗口縁部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐	暗灰黄	内黒ミガキ	ヨコナデ ヘラケズリ	(13.6)	(3.7)	−	−	
第21図2	4SD005	土師器	碗	石英・赤色粒子・角閃石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	−	−	−	−	
第21図3	4SD005	土師器	碗	石英・白色粒子	橙	橙	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	−	−	−	−	
第21図4	4SD005	土師器	浅鉢	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	にぶい褐	ナデ	指オサエ ナデ	(12.3)	(3.6)	−	−	
第21図5	4SD017	土師器	鉢	長石・石英・雲母・角閃石・黒色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	(12.5)	(5.3)	−	−	
第21図6	4SD017	土師器	壺口縁部	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ ケズリ	ナデ	−	−	−	−	
第21図7	4SD017	土師器	壺口縁部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ 指オサエ	ハケメ後ナデ	(14.0)	(6.7)	−		ハケメ単位不明
第21図8	4SD017	瓦	平瓦	角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	明赤褐	布目痕	格子タタキ	−	−	−	−	
第23図1	遺構検出時	青銅器	鏡片						長4.5	幅2.4	厚0.35		方格規矩鏡片 5mm穿孔
第23図2	H10検出時	須恵器	円面硯	石英	灰	暗灰	ナデ	ナデ					
第23図3	表採	緑釉陶器	壺？		明褐			緑釉　凹線					
第23図4	I区検出時	土師器	製塩土器	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	淡褐	淡褐							
第23図5	表採	土師器	製塩土器	石英・雲母・赤色粒子	淡褐	淡褐		ナデ 指オサエ	−	2.1	−	5.4	

第3表　大道遺跡群第5次調査出土遺物観察表

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第28図1	5SE045	土師器	ミニチュア甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ヘラケズリ 原体痕残る	ハケメ 指オサエ	(4.2)	(5.2)	(5.0)	−	内面に黒斑あり ハケメ単位(6～7本/cm)
第28図2	5SE045	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ ハケ	ナデ ハケメ	(16.2)	(4.9)	−	−	外面にスス付着 内面ハケメ単位(7本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)・(10本/cm)
第28図3	5SE045	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ヘラミガキ	ヘラミガキ後指オサエ	(14.2)	(5.1)	−	−	内外面に黒斑あり
第28図4	5SE045	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ後ミガキ	ハケメ後ナデ	(18.4)	10.5	−	−	内外面に黒斑あり ハケメ単位(10本/cm)
第28図5	5SE045	土師器	小形丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	明褐	にぶい黄橙	ナデ ヘラミガキ	ハケメ	(14.4)	7.6	−	−	ハケメ単位(5本/cm)
第28図6	5SE045	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐	にぶい橙	ナデ ヘラミガキ	ナデ ハケメ	(22.4)	(12.5)	(21.8)	−	ハケメ単位(9本/cm) 外面磨耗が激しい
第28図7	5SE045	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(16.0)	(5.6)	−	−	
第28図8	5SE045	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ ヘラミガキ後ヘラケズリ	ナデ	(15.6)	22.4	(19.8)	−	内外面に黒斑あり
第28図9	5SE045	土師器	甕	長石・雲母	橙	橙	ナデ後ミガキ ハケ後ミガキ	ナデ ハケメ	(23.0)	(9.2)	−	−	内面ハケメ単位(7～8本/cm) 外面ハケメ単位(11本～/cm)
第28図10	5SE045	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ナデ　・ハケ	指オサエ ナデ・ハケメ	(20.0)	(7.4)	−	−	内面ハケメ単位(8本/cm) 外面ハケメ単位(9本/cm)
第28図11	5SE045	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ ハケメ後ナデ 指オサエ　・ヘラケズリ	ナデ ハケメ・ヘラケズリ ハケメ後ナデ	14.6	27.5	24.4	−	内面に黒斑アリ 外面にスス付着 内面ハケメ単位(5本/cm) 外面ハケメ単位(13本/cm)
第28図12	5SE045	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	にぶい橙	ナデ ヘラミガキ　・ハケメ ハケメ ヘラケズリ	ナデ ハケメ ハケメ・ヘラミガキ	16.4	39.6	(28.7)	−	外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(　本/cm) 外面ハケメ単位(　本/cm)
第30図1	5SE148	土師器	小形鉢	長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄	にぶい黄	指圧痕	指圧痕	5.2	3.1	5.2	−	
第30図2	5SE148	土師器	小形器台	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	橙	ナデ後ミガキ ナデ ハケ	ナデ後ミガキ ハケメ後ミガキ ナデ	8.6	7.6	−	12.2	脚部円形透し3ヶ所 内面ハケメ単位(9本/cm) 外面ハケメ単位(10本/cm)
第30図3	5SE148	土師器	小形器台	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	指オサエ　・ハケ	ナデ ヘラミガキ	(9.2)	9.1	−	12.4	ハケメ単位(11本/cm) 脚部に透孔3ヶあり 外面・内面一部(杯部)調整不明
第30図4	5SE148	土師器	坏or鉢	石英・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ後ハケ	ナデ ヘラケズリ	(14.4)	(4.2)	−	−	
第30図5	5SE148	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ 指ナデ	ナデ ハケメ	(18.0)	8.1	−	6.3	外面に黒斑あり ハケメ単位(10本/cm)
第30図6	5SE148	土師器	高坏坏部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ ヘラミガキ	ナデ ミガキ？	(18.2)	(4.1)	−	−	外面にスス付着

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第30図7	5SE148	土師器	高坏	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	橙	指オサエ ハケ	ヘラケズリ後ハケ ハケメ	–	(8.6)	–	(17.0)	内外面に黒斑あり　ハケメ単位(8本/cm) 焼成前穿孔あり 脚部に円形透孔4ケあり
第30図8	5SE148	土師器	高坏脚	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	シボリ痕 坏部ヘラミガキ	ハケメ後ナデ？ヘラミガキ？	–	(6.2)	–	–	ハケメ単位(10本/cm)？
第30図9	5SE148	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子・角閃石	橙	橙	シボリ痕後ナデ	ナデ・ヘラミガキ	–	(5.5)	–	–	
第30図10	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ 指オサエ ヘラケズリ	ナデ 指オサエ ヘラケズリ後ハケ	10.0	14.4	13.6	1.5	外面に黒斑あり ハケメ単位(4本/cm)
第30図11	5SE148	土師器	甕	長石・赤色粒子・石英・角閃石	橙	橙	ナデ ケズリ後ナデ	ナデ ケズリ後ハケ後ナデ ハケメ	–	(13.9)	15.3	–	外面に黒斑あり ハケメ単位(4本/cm)
第30図12	5SE148	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ハケメ ヘラケズリ原体痕	ナデ ハケメ ヘラケズリ	–	(12.4)	(15.9)	–	外面に黒斑あり 内面ハケメ単位7本/cm) 外面ハケメ単位8本/cm)
第30図13	5SE148	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ヘラケズリ ・ ヘラミガキ ハケ ・ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	(20.0)	13.9	–	–	ハケメ単位(8本/cm)
第30図14	5SE148	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄	灰黄	ハケメ ・ ミガキ 指オサエ	指オサエ ナデ ハケメ	19.8	19.8	–	1.6	内外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(6本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)
第30図15	5SE148	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ後ミガキ ハケメ ナデ上げ又はミガキ	ナデ ハケメ ハケ後ミガキ	(19.0)	30.1	24.6	–	内面ハケメ単位(8本/cm) 外面ハケメ単位(6本/cm) ・(8本/cm)
第30図16	5SE148	土師器	複合口縁壺	長石・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	にぶい黄褐	ハケ後ミガキ ナデ 指頭痕	ナデ ハケメ後ミガキ ハケメ	–	(5.7)	(22.3)	–	外面にスス付着 外面頸部に突帯貼付 ハケメ単位(7本/cm)
第30図17	5SE148	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	にぶい黄橙	ハケメ	ナデ ミガキ	–	(24.6)	29.0	–	外面に黒斑あり 外面に貼付け突帯文あり ハケメ単位(5本/cm)・(8本/cm)
第30図18	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黄橙	黄橙	ナデ ハケメ(板ナデ？) ケズリ	ナデ ハケメ	15.6	23.2	17.6	–	外面に黒斑あり ハケメ単位(9～10/cm)
第31図19	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄	にぶい黄	ハケ ・ヘラミガキ	ナデ ハケメ	13.5	18.6	17.4	–	外面にスス付着 内外面ともに磨耗のため底部調整不明 ハケメ単位(8本/cm)
第31図20	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄	灰黄	ヨコナデ ヘラケズリ	ヨコナデ ハケメ・ナデ	13.9	21.0	–	0.8	外面にスス付着 ハケメ単位(9本/cm)
第31図21	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰黄	にぶい黄橙	ナデ ヘラケズリ	ナデ ハケメ	14.1	21.6	19.3	–	内外面にスス付着　ハケメ単位(9本/cm) 内面底部磨耗のため調整不明
第31図22	5SE148	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ ハケメ ・ヘラミガキ	ヨコナデ ハケメ	19.8	(22.5)	(23.9)	–	外面にスス付着 ハケメ単位(8本/cm)・(10以上/cm)
第31図23	5SE148	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙	橙	ナデ ハケ後ナデ 胴部ケズリ後ハケ後ミガキ	ナデ ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ	17.5	9.6	(20.4)		内外面にスス付着　ハケメ単位(10本/cm)
第31図24	5SE148	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐	にぶい橙	ナデ ヘラケズリ	ハケメ	(17.0)	(11.9)	(21.0)	–	外面にスス付着 外面ハケメ単位(7本/cm) 内面に原体痕あり
第31図25	5SE148	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	浅黄橙	ナデ ケズリ後ナデ ケズリ	ナデ ハケメ後ナデ ハケメ	13.4	24.1	20.0	–	内外面にスス付着 ハケメ単位(8本/cm) 口唇部に1条の沈線あり
第33図1	5SE149	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	浅黄橙	ナデ ケズリ後ハケ後一部ミガキ？ナデ？ ナデ上げ	ナデ ナデ上げ	17.1	29.2	24.4	–	内外面に黒斑あり ハケメ単位(11本～/cm)
第33図2	5SE149	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐	橙	口縁部ハケメ後ナデ 胴部指オサエ ・ ハケ ・ナデ ・ミガキ	ナデ ハケメ	(15.4)	21.0	17.0	–	内外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(6本/cm) 外面ハケメ単位(4本/cm)・(6本/cm)
第36図1	5SE163	土師器	ミニチュア小坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ オサエ	ナデ 指オサエ	5.0	2.5	–	–	外面に黒斑あり
第36図2	5SE163	土師器	鉢	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ？ ケズリ又は板ナデ	ナデ ハケメ	(8.1)	5.8	–	–	外面に黒斑あり ハケメ単位(7本/cm)
第36図3	5SE163	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	灰黄	ナデ	ナデ ヘラミガキ	(18.2)	(6.5)	–	–	内外面に黒斑あり
第36図4	5SE163	土師器	鉢 口縁部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ミガキ風ナデ	ハケ後ナデ					ハケメ単位(7本/cm)
第36図5	5SE163	土師器	小形丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	灰黄	灰黄	ナデ	ナデ	(10.4)	(3.8)	–	–	内外面に黒斑あり
第36図6	5SE163	土師器	碗	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ(ミガキ？)	(14.8)	(5.7)	–	–	内外面に黒斑あり
第36図7	5SE163	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ 板ナデ	ハケメ ケズリ	10.2	6.1	–	–	内外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(7本/cm) 外面ハケメ単位(8本/cm) 口唇部に1条の沈線あり
第36図8	5SE163	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ ハケメ	14.5	7.2	–	–	ハケメ単位(9本/cm)
第36図9	5SE163	土師器	小形丸底壺	石英・角閃石・雲母・赤色粒子	橙	浅黄橙	ナデ	ハケメ					ハケメ単位(10本/cm)
第36図10	5SE163	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ	ミガキ	22.2	(6.5)	–	–	口縁部に赤色塗彩の痕跡が残る
第36図11	5SE163	土師器	高坏脚	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	にぶい黄橙	ヘラミガキ ナデ？ ハケ	ヘラミガキ ナデ ハケメ	–	(6.3)	–	8.8	内外面に黒斑あり ハケメ単位(9本/cm)
第36図12	5SE163	土師器	高坏	長石・赤色粒子・角閃石	にぶい橙	にぶい橙	シボリ痕 指ナデ ヘラケズリ？	ハケメ ミガキ ハケメ後ミガキ ミガキ	–	(6.0)	–	–	底部内面は剥離している ハケメ単位(8本/cm)
第36図13	5SE163	土師器	高坏	石英・赤色粒子・角閃石・白色粒子・長石	橙	にぶい橙	ハケ	ハケメ後ナデ ヘラミガキ	–	(1.8)	–	(15.7)	円形透し孔4ヶ所か？ 内面ハケメ単位(6本/cm)
第36図14	5SE163	土師器	高坏	長石・雲母・赤色粒子			ナデ ハケメ後ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケメ	(26.4)	(6.5)	–	–	外面に少々黒斑あり 外面に2段の5～6条のワシ描波状文 2個1対の円形浮文　3組以上(浮文上に圧痕あり) 2個1対の棒状浮文3組以上(浮文上に圧痕3ヶ以上あり) 浮文上の圧痕はハケなどで施文 外面に赤色塗彩あり 内面ハケメ単位(7～8本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)
第36図15	5SE163	土師器	壺	長石・雲母・角閃石・赤・赤色粒子	橙	にぶい黄橙	ナデ ヘラケズリ	ハケメ	11.8	13.0	11.8	1.2	内外面ともに一部磨耗のため調整不明 外面赤色塗彩
第36図16	5SE163	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ 指オサエ	(7.4)	(3.1)	–	–	複合口縁
第36図17	5SE163	土師器	壺	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ 指オサエ 輪積痕	ナデ ハケメ	(11.0)	(6.9)	–	–	内外面に黒斑あり ハケメ単位(7本/cm)
第36図18	5SE163	土師器	壺	長石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	浅黄橙	ナデ ナデ後ミガキ シボリ痕 指オサエ	ナデ ナデ後ミガキ	(10.6)	(8.5)	(13.6)	–	ミガキの幅(単位)はとても細い R-058と同一個体(接合可)
第36図19	5SE163	土師器	壺	石英・赤色粒子	橙	浅黄橙	ナデ 指オサエ	ミガキ					
第36図20	5SE163	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子・角閃石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ	不明	–	(5.9)	–	–	外面磨耗の為調整不明 外面頸部に突帯(摩滅) ハケメ単位(11本/cm)
第36図21	5SE163	土師器	壺 頸部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	浅黄橙	ハケメ ナデ	ハケメ ミガキ					内面ハケメ単位(9本/cm) 外面ハケメ単位(6本/cm)
第36図22	5SE163	土師器	壺 胴部	石英・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	灰白	ハケメ ナデ	ハケメ					刻み目突帯 内面ハケメ単位(10本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第37図23	5SE163	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい黄橙	ハケ 板状ナデ	ナデ ハケメ	12.3	14.0	14.1	–	外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(7～8本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)
第37図24	5SE163	土師器	甕	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	浅黄橙	ハケメ後ヘラミガキ ハケメ ▪ヘラケズリ	ハケメ	(15.0)	22.0	16.2	1.2	内外面に黒斑あり ハケメ単位(7本/cm) 内面に原体痕あり
第37図25	5SE163	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ ハケ	ナデ 不透明なハケメ	(16.0)	(7.9)	–	–	内面ハケメ単位(6本/cm) 外面ハケメ単位(5本/cm)？
第37図26	5SE163	土師器	甕	長石・雲母	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ 工具痕	ナデ 不明瞭なハケメ	(18.0)	(10.0)	–	–	ハケメ単位(4～5本/cm)
第37図27	5SE163	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ハケ ▪ナデ	ハケメ▪ナデ	(16.6)	(3.2)	–	–	ハケメ単位(5～6本/cm)
第37図28	5SE163		甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰黄	にぶい黄橙	ナデ	ナデ ハケメ 指圧痕	(19.6)	5.2	–	–	内面に黒斑あり
第37図29	5SE163	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい赤褐	暗灰黄	ミガキ ハケメ ▪ ミガキ ケズリ	ハケメ ミガキ	16.8	28.9	22.0	–	内外面にススト付着 内面ハケメ単位(5～7本/cm) 外面ハケメ単位(8本/cm)
第37図30	5SE163	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ハケ後ナデ ハケメ 指オサエ ナデ	ナデ ハケメ	15.8	27.5	21.5	–	外面に黒斑あり 内面ハケメ単位(6本/cm) 外面ハケメ単位(5本/cm)・(6本/cm) 内面に原体痕あり
第37図31	5SE163	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい橙	ヨコナデ ナデ 指オサエ ▪ヘラケズリ	ヨコナデ ハケメ	(20.2)	(9.0)	–	–	内外面にススト付着 ハケメ単位(10本/cm)
第39図1	5SX044	須恵器		長石・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	–	(1.1)	(8.3)	(5.8)	
第39図2	5SX044	土師器	坏 口縁部	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	灰黄褐	回転ナデ	回転ナデ					
第39図3	5SX044	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	橙	橙	ハケ 指圧痕	ナデ	17.4	(4.1)	–	–	ハケメ単位(5本/cm)
第39図4	5SX044	土師器	高坏	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	橙	ハケメ▪ミガキ ナデ	ハケメ ナデ	(27.6)	(7.0)	–	–	内面ハケメ単位(7本/cm) 外面ハケメ単位(10本/cm)
第39図5	5SX044	土師器	高坏 脚部	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ					
第39図6	5SX044	土師器	壺	長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	灰黄褐	にぶい黄褐	不明	不明	–	(3.3)	–	–	
第39図7	5SX044		複合口縁壺	石英・長石・角閃石	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ	(14.0)	(7.2)	–	–	8～9条のクシ描波状紋(幅が広く深いのでヘラ描の様に表現)
第39図8	5SX044	土師器	複合口縁壺	角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(17.6)				
第44図1	5SE048	須恵器	坏	長石・石英・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	–	(1.5)	(14.2)	(9.6)	
第44図2	5SE048	須恵器	高坏 受け部	石英・角閃石・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ					
第44図3	5SE048	土師器	ミニチュア土製品 碗型	長石・角閃石・赤色粒子	橙	橙	指ナデ	指ナデ	(3.3)	2.1	3.6	–	
第44図4	5SE048	土師器	壺	長石・角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	黒褐	にぶい赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	–	(2.5)	–	–	内面に黒斑あり(ススト？)
第44図5	5SE048	土師器	蓋	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	–	(2.0)	–	–	
第44図6	5SE048	土師器	蓋	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ	–	–	–	–	
第44図7	5SE048	土師器	製塩土器？	角閃石・石英・赤色粒子	灰黄	暗灰	ナデ	指オサエ ナデ					口縁部は鋭い工具で切ったような面
第44図8	5SE048	須恵器	転用硯	石英	暗青灰	暗青灰	ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	つまみ径(2.3)	長7.2	幅4.8		内面に墨付着
第46図1	5SE140	須恵器	坏蓋	長石・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	つまみ径(2.2)	1.7	–	(13.9)	
第46図2	5SE140	須恵器	高坏	石英・長石・白色粒子	灰	灰	ナデ	ナデ 回転ヘラケズリ ナデ	–	(5.3)	(17.1)	–	
第46図3	5SE140	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	(13.6)	4.4	–	7.2	
第46図4	5SE140	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.4)	4.0	(13.8)	8.0	
第46図5	5SE140	土師器	坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	14.3	4.5	13.2	7.4	内面にススト付着
第46図6	5SE140	土師器	鉢	石英・赤色粒子・白色粒子・	にぶい黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ					
第46図7	5SE140	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ 指圧痕	ヨコナデ ハケメ	(15.1)	(13.6)	–	–	ハケメ単位(4本/cm)
第46図8	5SE140	土師器	小形丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	橙	にぶい橙	ナデ	ナデ ハケメ	(10.2)	(3.3)	–	–	ハケメ単位(6～7本/cm)
第46図9	5SE140	土師器	甕 口縁部	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ					
第46図10	5SE140	土師器	甕 口縁部	角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ					
第46図11	5SE140	弥生土器	甕	長石・雲母・角閃石・石英・白色粒子	灰黄	浅黄	ヘラケズリ後指ナデ	ハケメ？ ナデ 指ナデ	–	(2.9)	–	(5.4)	
第46図12	5SE140	瓦	平瓦	角閃石・白色粒子	灰	灰	布目痕	格子タタキ					
第46図13	5SE140	瓦	平瓦	角閃石・白色粒子	灰	灰	布目痕	格子タタキ					
第46図14	5SE140	瓦	平瓦	白色粒子	灰	黄灰	布目痕	格子タタキ 指オサエ					
第46図15	5SE140	瓦	平瓦	石英・角閃石・白色粒子	黄灰	灰	布目痕	格子タタキ					
第48図1	5SD003	須恵器	坏身	石英・長石・白色粒子	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	–	(3.1)	–	–	
第48図2	5SD003	須恵器	短頸壺	長石	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	(6.6)	(1.4)	–	–	肩部に自然釉付着
第48図3	5SD003	須恵器	高坏	長石・角閃石・白色粒子	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	(12.0)	(3.7)	–	–	
第48図4	5SD003	須恵器	台付鉢	石英・長石	灰	灰	ナデ	ナデ	–	(4.1)	(10.4)	–	
第48図5	5SD003	須恵器	高坏	石英・長石・白色粒子	灰	灰	ナデ	ナデ	–	(3.5)	–	(12.2)	
第48図6	5SD003	黒色土器	碗	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黒	にぶい橙	ヘラミガキ	ナデ	–	(2.4)	–	8.3	外面に黒斑あり
第48図7	5SD003	黒色土器	碗	石英・雲母・赤色粒子	黒	浅黄橙	ヘラミガキ	不明	–	(1.7)	–	(8.0)	ケズリ出し高台 外面磨耗の為調整不明
第48図8	5SD003	土師器	蓋	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ ハケメ	–	(2.0)	–	(13.4)	ハケメ単位(8本/cm)
第48図9	5SD003	土師器	蓋	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	明赤褐	回転ナデ	回転ナデ	–	1.8	–	13.4	
第48図10	5SD003	土師器	蓋	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	–	(1.5)	–	(14.8)	
第48図11	5SD003	土師器	皿	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	橙	ナデ	ナデ 回転ヘラケズリ	(11.2)	(3.2)	–	–	
第48図12	5SD003	土師器	碗	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子			ナデ	ナデ	(13.9)	(4.5)	–	–	
第48図13	5SD003	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	–	(3.4)	–	(13.8)	
第48図14	5SD003	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	浅黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ 回転糸切り？	(12.6)	3.6	–	(8.0)	
第48図15	5SD003	土師器	皿	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(13.5)	(3.8)	–	(8.4)	
第48図16	5SD003	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰赤	橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.8)	4.3	–	(8.0)	内外面にススト付着

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第48図17	5SD003	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ナデ	面とり	−	(4.8)	−	−	
第48図18	5SD003	土師質	土錘	角閃石・白色粒子		黒							孔径0.5cm、長さ2.8cm、幅1.4cm、重さ4.4g
第48図19	5SD003	土師器	製塩土器？	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子			ナデ	指オサエ	−	4.5	−	−	
第48図20	5SD003	土師器	製塩土器？	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子			ナデ	指オサエ	−	4.9	−	−	
第48図21	5SD003	土師器	製塩土器？	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子				ナデ 指オサエ	−	2.7	−	(3.0)	
第48図22	5SD003	土師器	製塩土器？	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子			ナデ	指オサエ	−	3.8	−	−	
第48図23	5SD003	土師器	製塩土器？	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子			ナデ	ナデ 指オサエ	−	2.8	−	−	
第51図1	5SK145	土師器	甑	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐	にぶい橙	指オサエ ハケメ	ハケメ	−	(12.9)	−	−	ハケメ単位(5本/cm)
第51図2	5SK143	瓦	平瓦	石英・角閃石・長石・赤色粒子	黄褐	にぶい黄橙	布目痕後ナデ	網目タタキ					
第53図1	5SD005	弥生土器	下城甕 口縁部	石英・角閃石・長石・赤色粒子	橙	にぶい橙	指オサエ ナデ	ナデ					
第53図2	5SD005	土師器	碗	長石・赤色粒子・角閃石	黒	橙	内黒ミガキ	ミガキ	15.4	(5.3)	15.5	−	内黒
第53図3	5SD042	瓦	平瓦	石英・角閃石・長石・白色粒子	灰	灰	タタキ 布目痕	タタキ					
第53図4	5SD049	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	(14.1)	5.4	(11.5)	8.0	貼付輪高台
第53図5	5SD141	須恵器	蓋	白色粒子	灰黄褐	灰白	回転ナデ	回転ナデ					
第53図6	5SD105	須恵器	坏	長石・雲母・角閃石	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ	−	(1.7)	−	(9.0)	
第53図7	5SD105	須恵器	長頸壺 頸部	白色粒子	灰白	黄灰	回転ナデ	回転ナデ					
第53図8	5SD141	須恵器	坏蓋	石英	灰	灰	ナデ	ナデ					
第53図9	5SD141	須恵器	平瓶 胴部	雲母・白色粒子	灰白	灰白	ナデ	カキ目					
第53図10	5SD141	須恵器	大甕 胴部	石英・白色粒子	灰白	灰	同心円あて具痕	平行タタキ					
第53図11	5SD141	土師器	碗	石英・長石・角閃石・雲母	黒褐	にぶい黄橙	内黒ミガキ	ヨコナデ		(1.4)	−	(7.6)	
第53図12	5SD141	土師器	坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	(12.4)	(3.5)	−	−	
第53図13	5SD141	土師器	坏 口縁部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	橙	ナデ	ナデ					
第53図14	5SD141	土師器	碗	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	橙	ナデ	ナデ					
第53図15	5SD141	土師器	壺	長石・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	橙	浅黄橙	不明	ハケメ	(10.8)	(3.5)	−	−	ハケメ単位(5〜6本/cm)？
第53図16	5SD141	土師器	碗	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	にぶい黄橙	指圧痕	指圧痕	(9.4)	3.0	(9.8)	(4.0)	
第53図17	5SD141	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・白色粒子	橙	明黄褐	底部粘土充填 坏部板状圧痕	ハケメ	−	(10.4)	−	−	内面底部、外面にわずかに赤色塗彩が残る ハケメ単位(4本/cm) 坏部磨耗のため調整不明
第53図18	5SD141	土師器		長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐	橙		指オサエ	幅(4.0)	(3.4)	−	−	
第53図19	5SD141	土師器	高坏 口縁部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	浅黄橙	ナデ	ナデ					
第53図20	5SD141	土師器	複合口縁壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子・軽石	橙	橙	ハケメ ナデ	ハケメ					内面ハケメ単位(8本/cm) 外面ハケメ単位(7本/cm)
第53図21	5SD141	石器	紡錘車	滑石	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ					孔径0.8cm、最大径4.3cm、高さ1.2cm、重さ33.5g
第53図22	5SD161	須恵器	蓋	石英・白色粒子	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ					
第53図23	5SD161	須恵器	はそう？	白色粒子	灰白	暗灰	回転ナデ	回転ナデ					
第53図24	5SD161	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・	浅黄橙	浅黄橙	ハケ ヘラケズリ？	ハケメ後ナデ ナデ	−	(3.5)	−	−	ハケメ単位(8 本/cm)
第54図1	遺構検出時	三彩陶器	短頸壺				透明釉	緑釉　黄釉　褐釉				4.4	胎土白色　軟質
第55図1	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石	暗灰褐	暗褐	条痕後ナデ	条痕後ナデ					
第55図2	5SD161	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ					
第55図3	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕後ナデ	条痕後ナデ					
第55図4	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	黄褐	にぶい黄褐	ナデ						
第55図5	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・白色粒子	暗灰褐	暗灰褐	ナデ						
第55図6	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	条痕					
第55図7	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	沈線					
第55図8	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	暗灰褐	暗褐	ナデ	ナデ　沈線					
第55図9	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	暗灰褐	暗灰褐	ナデ	工具ナデ　沈線					
第55図10	4SD003	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	暗灰褐	灰褐	条痕後ナデ	工具ナデ					
第55図11	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・白色粒子	灰褐	暗褐	ナデ	条痕					
第55図12	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	灰褐	条痕	条痕					
第55図13	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	条痕					
第55図14	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	黄褐	灰褐	ナデ	ナデ					
第55図15	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・白色粒子	暗灰褐	暗灰褐	ナデ	条痕					
第55図16	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・角閃石・雲母	灰褐	灰褐	ナデ	条痕					
第55図17	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	灰褐	暗灰褐	ナデ						
第55図18	遺構検出時	縄文土器	深鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	暗灰褐	条痕後ナデ						
第55図19	5SD141	縄文土器	深鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	不明	ヨコナデ	−	(2.6)	−	(8.4)	内面磨耗の為調整不明 外面原体痕残る
第55図20	遺構検出時	縄文土器	浅鉢	石英・長石・角閃石・雲母	灰白	黄褐							
第55図21	遺構検出時	縄文土器	浅鉢	石英・長石・角閃石・雲母	茶褐	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ					
第55図22	遺構検出時	縄文土器	浅鉢	石英・長石・角閃石・雲母	淡黄褐	淡黄褐	ナデ	条痕					
第55図23	遺構検出時	縄文土器	浅鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐	暗灰褐							
第55図24	遺構検出時	縄文土器	浅鉢	長石・角閃石・白色粒子	黒褐	黒褐							底部

第4表　大道遺跡群第8次調査出土遺物観察表

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第60図1	8SD001	須恵器	坏底部	長石・石英・赤色粒子・白色粒子・角閃石		にぶい黄	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	−	(1.6)	(12.0)	(10.3)	
第60図2	8SD001	須恵器	坏		灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	−	3.0+α	−	(10.1)	
第60図3	8SD001	須恵器	長頸壺		灰オリーブ	灰	回転ナデ	回転ナデ	−	−	−	−	
第60図4	8SD001	須恵器	壺口縁部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄灰	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	(16.5)	(1.9)	(16.6)	−	
第60図5	8SD001	須恵器	壺		灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	−	5.2+α	−	−	
第60図6	8SD001	須恵器	高坏坏部	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	−	(1.8)	(11.6)	−	
第60図7	8SD001	須恵器	壺	長石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰	灰		回転ナデ	−	25.6	(26.9)	(13.9)	

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第60図8	8SD001	須恵器	壺	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰	灰	回転ナデ	タタキ後ヨコナデ 回転ナデ	−	(10.9)	(17.5)	(11.7)	
第60図9	8SD001	須恵器	四耳壺	長石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	−	(23.0)	(20.0)	(12.0)	
第60図10	8SD001	須恵器	長頸壺	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	灰	回転ナデ ナデ	ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	−	(10.5)	(21.2)	(13.8)	
第60図11	8SD001	須恵器	甕		灰	暗灰	ナデ タタキ	回転ナデ	−	−	−	−	
第60図12	8SD001	須恵器	甕	石英・長石・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ タタキ	回転ナデ タタキ	(20.8)	(6.5)	(24.4)	−	
第60図13	8SD001	須恵器	甕口縁部	長石・石英・白色粒子・黒色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	(20.3)	(5.7)	(21.0)	−	
第60図14	8SD001	黒色土器	碗	角閃石・雲母	暗灰	灰	ミガキ	ミガキ	−	−	−	−	
第60図15	8SD001	土師器	坏口縁部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐	明褐	回転ヘラミガキ	回転ヘラミガキ	(12.8)	(2.9)	(13.1)	−	
第60図16	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ヘラミガキ ナデ	回転ヘラミガキ 回転ヘラ切り	14.1	3.6	−	8.0	
第60図17	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ミガキ 回転ナデ ナデ	ミガキ 回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.9)	3.4	(14.2)	7.4	
第60図18	8SD001	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	−	(1.0)	(10.0)	(7.0)	
第60図19	8SD001	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ミガキ 回転ナデ	回転ナデ ミガキ 回転ヘラ切り	−	(1.2)	(10.8)	(8.0)	
第60図20	8SD001	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子・角閃石	浅黄橙	橙	回転ナデ ミガキ	回転ナデ 回転ヘラ切り	−	(1.8)	(11.2)	(7.0)	
第60図21	8SD001	土師器	坏	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子		橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(11.6)	3.1	(11.7)	7.0	
第60図22	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ヘラミガキ ナデ	回転ヘラミガキ 回転ヘラ切り	(15.0)	2.9	(15.0)	(8.0)	
第60図23	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	回転ヘラミガキ ナデ	回転ヘラミガキ 回転ヘラ切り	(14.8)	2.9	(14.9)	(7.9)	
第60図24	8SD001	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子・角閃石	にぶい黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	−	(1.9)	(10.0)	(7.6)	
第60図25	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	(12.5)	(2.8)	(12.7)	−	
第60図26	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ヘラミガキ ナデ	回転ヘラミガキ ナデ	−	(4.3)	(13.2)	(8.0)	高台取れている
第60図27	8SD001	土師器	碗	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(15.3)	5.0	(15.6)	(7.7)	内面に黒斑
第60図28	8SD001	土師器	碗	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ ナデ	(15.7)	(5.6)	(15.8)	−	
第61図29	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り 板状圧痕	(11.5)	3.3	(11.8)	(5.8)	
第61図30	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	浅黄	浅黄	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(11.8)	3.1	(12.0)	(7.2)	
第61図31	8SD001	土師器	坏底部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	−	(2.2)	(12.1)	(8.0)	
第61図32	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(12.5)	4.1	(12.7)	6.6	
第61図33	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい黄褐	灰黄褐	回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	(13.4)	(3.9)	(14.0)	(9.3)	
第61図34	8SD001	土師器	坏	長石・石英・雲母・赤色粒子・チャート・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	橙	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り	(13.8)	(4.1)	(14.1)	(8.6)	
第61図35	8SD001	土師器	高坏脚部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	橙	ミガキ 回転ヘラケズリ	ヨコナデ	−	(6.3)	(4.3)	−	
第61図36	8SD001	土師器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子・角閃石	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ 指オサエ	ナデ 指オサエ	−	(3.7)	−	−	
第61図37	8SD001												
第61図38	8SD001	土師器	企救型甕	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	橙	ナデ	ハケ ナデ	−	−	−	−	
第61図39	8SD001	土師器	企救型甕	石英・長石・赤色粒子	橙	褐	ナデ	ハケ ナデ	−	−	−	−	
第61図40	8SD001	土師器	企救型甕	石英・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	橙	ナデ	ハケ ナデ	−	−	−	−	
第61図41	8SD001	土師器	企救型甕(小形) 口縁部～頸部	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	暗灰黄	にぶい黄褐	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ハケ	(10.8)	(4.2)	(12.0)	−	ハケメ単位(6本/cm) 全体に火を受けている
第61図42	8SD001	土師器	企救型甕口縁部	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ハケ	(20.0)	(5.8)	(21.8)	−	ハケメ単位不明 (6本/cm)か？
第61図43	8SD001	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	灰白	ナデ	列点文 櫛描き波状文	−	−	−	−	列点文、櫛描き波状文が施されている
第65図	8SK011	土師器	坏	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄	浅黄	ナデ 指頭圧痕	ナデ 指頭圧痕	12.2	4.0	−		京都系土師器
第67図1	8SD013	青白磁	合子					口縁部底部無釉	−	1.7+α	−	(3.8)	
第67図2	8SD013	白磁	小(紅)皿				施釉	下半無釉	(4.7)	1.5	−	(1.3)	
第67図3	8SD013	青磁	香炉？				施釉	施釉	(8.8)	2.6+α	−	−	
第67図4	8SD013	青磁	皿						(8.2)	2.3	−	(4.6)	三田青磁
第67図5	8SD013	白磁	碗					無釉	−	2.6+α	−	(5.5)	
第67図6	8SD013	青磁	香炉				口縁部のみ施釉	高台内以外施釉	(8.6)	5.2	−	(3.9)	
第67図7	8SD013	青磁	瓶？						(3.8)	2.4+α	−	−	二次被熱
第67図8	8SD013	青磁	碗						−	−	−	−	
第67図9	8SD013	肥前磁器	水滴				布目痕		長2.5	幅2.3+α	−	厚2.2	
第67図10	8SD013	肥前磁器	人形					足先のみ無釉	長4.0	幅1.3	−	厚1.4	
第67図11	8SD013	肥前磁器	色絵　合子				口縁端部無釉		(6.0)	2.4+α	−	−	
第67図12	8SD013	肥前染付	皿				見込　蛇目釉剥ぎ		−	0.7＋α	−	(6.8)	蛇目凹形高台
第67図13	8SD013	肥前染付	皿						−	1.4+α	−	(6.2)	畳付砂付着
第67図14	8SD013	肥前染付	皿								−		
第67図15	8SD013	肥前染付	皿						(12.3)	3.1	−	(7.0)	口銹
第67図16	8SD013	肥前染付	皿						(14.1)	3.3	−	(8.7)	
第67図17	8SD013	肥前染付	蓋				口縁部のみ無釉		(9.0)	2.4+α	−	−	
第67図18	8SD013	肥前染付	蓋				口縁部のみ無釉		(10.7)	1.8+α	−	−	
第67図19	8SD013	磁器	香炉						(7.0)	5.2+α	−	−	
第67図20	8SD013	肥前染付	筒形碗						(7.0)	4.7+α	−	−	
第67図21	8SD013	肥前染付	筒形碗						−	2.1+α	−	(3.6)	
第67図22	8SD013	肥前染付	碗						−	3.5+α	−	(4.7)	
第67図23	8SD013	肥前染付	碗					コンニャク印判	(9.8)	4.2+α	−	−	
第67図24	8SD013	肥前染付	碗						(12.2)	5.1+α	−	−	
第67図25	8SD013	肥前染付	碗						(9.2)	4.0+α	−	−	瀬戸・美濃
第67図26	8SD013	肥前染付	碗						(14.6)	3.6+α	−	−	焼継ぎ有り
第67図27	8SD013	肥前陶器	碗				透明釉	透明釉・畳付無釉	−	3.2+α	−	−	
第67図28	8SD013	陶器	碗				鉄釉	鉄釉・畳付無釉	−	2.9+α	−	(4.7)	瀬戸・美濃
第67図29	8SD013	肥前陶器	碗				灰釉	灰釉一部施釉	(12.0)	5.2+α	−	−	
第67図30	8SD013	肥前陶器	碗				ハケメ	ハケメ	−	5.6+α	−	(4.4)	
第67図31	8SD013	陶胎染付	碗						−	4.7+α	−	4.9	

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第67図32	8SD013	肥前陶器	碗				透明釉	透明釉・畳付無釉	−	2.6+α	−	(4.4)	
第67図33	8SD013	京信楽系陶器	碗				透明釉	透明釉・高台無釉	−	2.4+α	−	(3.5)	
第67図34	8SD013	肥前陶器	碗				灰釉	底部無釉・灰釉	−	1.7+α	−	4.8	糸切後高台削り出し 砂目痕
第67図35	8SD013	関西系陶器	土瓶				無釉	鉄釉	(6.2)	2.1	−	(3.8)	
第67図36	8SD013	陶器	鉢？				緑釉	緑釉	−	−	−	−	
第67図37	8SD013	陶器	炉火具						(7.6)	2.7	−	(5.2)	
第67図38	8SD013	陶器	炉火具				鉄釉	鉄釉底部無釉	4.4	3.9	−	3.4	いわゆる「タンコロ」
第67図39	8SD013	陶器	鉢？						−	6.0+α	−	(13.0)	
第67図40	8SD013	備前焼	擂鉢					わら灰釉	−	−	−	−	
第67図41	8SD013	肥前陶器	擂鉢				鉄釉	鉄釉	−	−	−	−	
第67図42	8SD013	肥前陶器	擂鉢				鉄釉	鉄釉	−	−	−	−	
第68図43	8SD013	肥前染付	蓋						−	1.5+α	−	(4.0)	明治印判
第68図44	8SD013	土製品	土錘			にぶい黄橙							孔径0.8cm、長さ5.2cm、幅1.8cm
第68図45	8SD013	土師質土器	焜炉						(16.8)	11.3+α	−	−	
第68図46	8SD013	土師質土器	焜炉						(27.4)	6.4+α	−	−	
第68図47	8SD013	石製品	石板						−	−	−	−	

第5表　大道遺跡群第12次調査出土遺物観察表

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第62図1	12SD010 2層	須恵器	蓋	石英・長石	黄灰	黄灰	ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	−	(1.3)	−	−	つまみ欠損
第62図2	12SD010 2層	須恵器	蓋	石英・長石	灰白	灰白	ナデ	ナデ 回転ヘラケズリ	つまみ径 (2.7)	(1.7)	−	−	
第62図3	12SD010 2層	須恵器	蓋	長石・赤色粒子	灰	灰	ナデ	ナデ	つまみ径 2.6	(1.3)	−	−	
第62図4	12SD010 2層	須恵器	蓋	石英・長石・赤色粒子	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	−	(2.1)	−	(17.8)	
第62図5	12SD010 2層	須恵器	坏	長石	灰	灰	ナデ	ナデ	−	(2.0)	−	−	
第62図6	12SD010 1層	須恵器	瓶？	石英・長石	灰	灰	ナデ	ナデ	−	(2.0)	−	(3.4)	底部糸切り
第62図7	12SD010	須恵器	甕	石英・長石・角閃石	灰	灰	ナデ	ナデ	(22.0)	(5.0)	−	−	
第62図8	12SD010	須恵器	甕	石英・長石・角閃石	灰	灰	ナデ	ナデ	(21.2)	(5.6)	−	−	
第62図9	12SD010 1層	須恵器	甕	石英・長石	灰	灰	ナデ	ナデ タタキ後ナデ	(20.2)	(8.6).	−	−	外面に6条の波状文あり なんらかの模様あり
第62図10	12SD010 1層	土師器	坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	−	(1.8)	−	−	
第62図11	12SD010 1層	土師器	坏	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	−	(1.7)	−	−	
第62図12	12SD010 1層	土師器	坏	長石・赤色粒子	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ ケズリ？	−	(2.9)	−	(9.0)	
第62図13	12SD010 1層	土師器	坏	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	(13.9)	(3.4)	−	−	
第62図14	12SD010	土師器	甑把手				指オサエ		6.9	5.2	−	3.0	
第62図15	12SD010 2層	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ タタキ後ハケ	−	(4.3)	−	−	内面に当て具痕あり
第62図16	12SD010 2層	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	−	(18.7)	(3.0)	−	−	円状浮文あり 3条の波状文と円形文あり
第62図17	12SD010	土製品	土錘										孔径1.2cm、長さ6.8cm、幅3.3cm
第63図1	12SX005	土師器	蓋	石英・長石・雲母・赤色粒子	褐	明赤褐	回転ナデ後ミガキ	回転ナデ後ミガキ 回転ヘラケズリ後ミガ	−	(1.8)	−	(13.8)	
第63図2	12SX005	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	明赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ ハケメ	−	(2.4)	−	−	ハケメ単位(4本/cm)
第63図3	12SX005	土師器	碗	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	橙	ナデ	ナデ	−	(3.0)	−	−	
第63図4	12SX005	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	明赤褐	明赤褐	ナデ	ナデ	−	(2.5)	−	−	
第63図5	12SX005	土製品	土錘										孔径0.5cm、長さ4.4cm、幅1.5cm
第70図1	12SX020	肥前染付	小杯		灰白(胎土)	明青灰(釉)			−	(2.5)	−	2.4	外面高台から底部を除いて内外面に施釉あり
第70図2	12SX020	肥前磁器	小杯		灰白	灰白	−	−	(5.8)	(2.0)	−	−	内外面に施釉あり
第70図3	12SX020	肥前染付	小杯		明緑灰 灰白(胎土)	明緑灰 明緑灰(釉)			(4.8)	(2.8)	−	−	内外面に施釉あり 外面に文様あり
第70図4	12SX020	肥前染付	小碗		灰白(胎土)	淡黄(釉)	−	−	(7.0)	(3.2)	−	−	内外面に施釉 外面胴部染付
第70図5	12SX020	肥前染付	小碗		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)		コンニャク印判	(6.8)	(3.7)	−	−	内外面に施釉あり 外面に文様あり
第70図6	12SX020	肥前染付	小碗		灰白	明緑灰		コンニャク印判	(7.7)	(5.4)	−	(3.2)	高台の一部を除いて内外面に施釉あり
第70図7	12SX020	肥前染付	小碗		明オリーブ灰 灰白(胎土)	明オリーブ灰 明オリーブ灰(釉)			(8.6)	(3.5)	−	−	内外面に施釉あり 外面に文様・圏線あり
第70図8	12SX020	肥前染付	碗		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			(8.3)	4.8	−	3.4	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 外面に文様・圏線・二重圏線あり
第70図9	12SX020	肥前染付	碗		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			−	(3.5)	(7.8)	(3.8)	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 外面に文様・圏線・二重圏線あり
第70図10	12SX020	肥前染付	碗		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			(8.8)	5.8	−	(3.4)	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 外面に草花文・圏線・二重圏線あり
第70図11	12SX020	肥前磁器	碗		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			−	(2.0)	−	4.0	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 外面に色絵草花文？あり
第70図12	12SX020	青花	皿		明オリーブ灰 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			(9.6)	(1.7)	−	−	内外面に施釉あり 内面口縁部に二重圏線あり 外面に二重圏線・文様あり
第70図13	12SX020	肥前磁器	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)	−	−	(13.8)	(2.2)	−	−	内外面に施釉あり 口唇部にロサビあり
第70図14	12SX020	肥前染付	碗		灰白(胎土)	明オリーブ灰 (釉)			(12.5)	(3.0)	−	−	内外面に施釉あり 内面に圏線・文様・二重圏線あり 外面に圏線あり
第70図15	12SX020	肥前磁器	皿		明オリーブ灰	明オリーブ灰			−	(2.0)	−	(4.4)	内外面の一部施釉あり 内面に蛇ノ目釉剥ぎあり
第70図16	12SX020	肥前染付	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)			−	(2.1)	−	(5.4)	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 内面染付けあり 内面圏線あり
第70図17	12SX020	肥前磁器	水滴			赤上絵付け	布目		8.5	5.1	−	0.7	
第70図18	12SX020	肥前染付	鉢		灰白(胎土)	明緑灰(釉)			(22.2)	7.2	−	(12.6)	高台の一部を除いて内外面に施釉あり 内面に二重圏線・草花文あり 外面圏線・二重圏線あり
第70図19	12SX020	陶器	小杯		灰白(胎土)	オリーブ褐 (釉)		回転糸きり	−	(1.8)	−	3.2	内面無釉 外面一部施釉あり
第70図20	12SX020	陶器	小杯		にぶい黄橙	にぶい黄橙			−	(2.7)	−	2.9	内外面に施釉あり 高台に砂粒付着
第70図21	12SX020	須恵器	蓋	石英・長石	灰	灰	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	(10.7)	(1.5)	−	−	
第70図22	12SX020	肥前陶器	皿		灰 灰(胎土)	にぶい黄 黄灰(釉)			(11.0)	3.5	−	(3.4)	内面・口縁に施釉
第70図23	12SX020	肥前陶器	皿		灰黄 灰白(胎土)	灰黄 灰黄(釉)			−	(1.9)	−	(4.0)	高台の一部を除いて内外面に施
第70図24	12SX020	肥前陶器	皿		暗オリーブ 灰(胎土)	灰白 暗オリーブ			−	(1.9)	−	(3.7)	内外面一部施釉あり
第70図25	12SX020	肥前陶器	皿		灰白 灰白(胎土)	灰白 灰白(釉)			−	(1.9)	−	4.8	高台の一部を除いて内外面に施釉
第70図26	12SX020	肥前陶器	鉢		灰オリーブ 灰白(胎土)	灰オリーブ 灰オリーブ			(13.1)	(4.1)	−	−	内外面に施釉あり

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第70図27	12SX020	肥前陶器	碗		浅黄 淡黄(胎土)	浅黄 浅黄(釉)			–	(3.4)	(9.5)	4.2	高台の一部を除いて内外面に施釉あり
第70図28	12SX020	肥前陶器	碗		浅黄 灰黄(胎土)	灰白 灰白(釉)			–	(2.4)	–	5.3	高台の一部を除いて内外面に釉あり
第70図29	12SX020	肥前陶器	碗	精製土	浅黄	浅黄	施釉	施釉 高台無釉	–	1.8+α	–		高台の一部を除いて内外面に釉あり 京焼風陶器　刻印あり
第70図30	12SX020	肥前陶器	鉢		明赤褐(胎)	褐(釉)	型紙摺り文様		–	(5.1)	–	(12.0)	外面高台底部を除き内外面施釉あり
第70図31	12SX020	肥前陶器	鉢		暗灰黄 灰黄褐(胎土)	にぶい黄褐 にぶい黄褐 (釉)	刷毛目	–	(21.2)	(5.7)	–	–	内外面に施釉あり
第70図32	12SX020	肥前陶器	甕		暗褐	黒褐	ナデ	ナデ	–	(5.1)	–	–	
第70図33	12SX020	備前焼	擂鉢		褐灰	褐灰 淡黄(釉)	ナデ	ナデ	–	(6.1)	–	–	
第70図34	12SX020	備前焼	擂鉢	長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐	明赤褐	回転ナデ 節目	回転ナデ	–	(5.6)	–	–	
第70図35	12SX020	備前焼	擂鉢	長石・赤色粒子	灰	にぶい赤褐	櫛目	回転ナデ	–	(4.3)	–	(15.0)	
第70図36	12SX020	焼締陶器	把手		褐灰(胎土)	暗赤褐(釉)	–	–	–	(6.0)	–	–	
第70図37	12SX020	土師器	小皿	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ ナデ・指オサエ	6.0	2.2	–	–	
第70図38	12SX020	土師器	小皿	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	橙	ナデ	ナデ	(6.4)	1.5	–	(4.2)	
第70図39	12SX020	瓦	軒平瓦						6.4+α	5.7+α	3.1+α		中心飾り　三葉桐葉
第70図40	12SX020	土製品	土錘										孔径0.3cm、長さ3.9cm、幅1.0cm
第70図41	12SX020	青銅製品	煙管						長6.1	幅1.5		厚2.1	
第70図42	12SX020	青銅製品	煙管						長5.1	幅1.8		厚3.1	
第70図43	12SX020	青銅製品	煙管						長4.7	幅16		厚1.8	
第70図44	12SX020	石製品	硯	粘板岩					長7.5	幅4.0		厚1.1	

第6表　大道遺跡群第13次調査出土遺物観察表

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第73図1	13SX015	青花	碗		灰白(胎土)	明緑灰(釉)			–	(2.9)	–	–	内外面に施釉 内外面に文様あり
第73図2	13SX015	青花	碗		灰白(胎土)	明緑灰(釉)			–	(1.9)	–	(5.7)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に圏線・文様あり 外面に圏線あり
第73図3	13SX015	青花	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)			–	(1.0)	–	(8.8)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に2重圏線・文様あり 外面に圏線・2重圏線あり
第73図4	13SX015	肥前染付	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)			–	(2.3)	–	(5.2)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に文様あり
第73図5	13SX015	肥前染付	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)			(11.8)	3.6	–	(4.2)	内外面ともに一部施釉 内面に染付け・蛇ノ目釉剥ぎあり
第73図6	13SX015	肥前染付	蓋		灰白(胎土)	灰白(釉)			–	(1.3)	–	(5.3)	口縁部の一部を除いて内外面に施釉 外面に草花文・圏線あり
第73図7	13SX015	肥前染付	碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			(10.7)	(4.8)	–	–	内外面に施釉 外面に草花文あり
第73図8	13SX015	肥前染付	蓋物(鉢)		灰白(胎土)	灰白(釉)			(9.9)	(4.8)	–	–	内外面に施釉 外面に圏線・染付けあり
第73図9	13SX015	肥前陶器	皿		灰(胎土)	灰黄(釉)			–	(1.9)	–	(4.0)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に鉄絵あり
第73図10	13SX015	肥前陶器	皿		灰白(胎土)	灰オリーブ・明オリーブ灰			(11.4)	3.0	–	(3.6)	内外面ともに一部施釉 内面に蛇ノ目釉剥ぎあり
第73図11	13SX015	肥前陶器	碗		灰白(胎土)	浅黄(釉)			–	(2.4)	–	(3.7)	高台の一部を除いて内外面に施釉 京焼風
第73図12	13SX015	陶器	碗		灰(胎土)	暗褐(釉)			(10.0)	5.0	–	(3.8)	高台の一部を除いて内外面施釉 瀬戸・美濃
第73図13	13SX015	肥前陶器	碗		灰(胎土)	暗オリーブ褐(釉)		ハケメ	–	(4.2)	–	(4.3)	高台の一部を除いて内外面に施釉
第73図14	13SX015	陶胎染付	碗		灰(胎土)	オリーブ灰(釉)			(9.8)	6.8	–	(4.5)	高台を除いて内外面に施釉 外面に文様・圏線あり
第73図15	13SX015	京信楽系陶器	碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			(8.6)	5.4	–	(4.1)	高台から底部を除いて内外面に施釉 外面に文様あり
第73図16	13SX015	肥前陶器	鉢	石英・長石	にぶい褐(胎土)	黒褐(釉)		ケズリ	–	(5.1)	–	(10.3)	内面施釉 外面一部施釉？あり
第73図17	13SX015	関西系陶器	土瓶		灰(胎土)	灰オリーブ(釉)			(10.2)	(2.7)	–	–	口縁の一部を除いて内外面に施釉
第73図18	13SX015	備前焼	擂鉢	石英・長石・赤色粒子	灰	灰 黒褐(釉)	節目 回転ナデ	回転ナデ	–	(4.9)	–	–	口唇部に凹線あり
第73図19	13SX015	肥前陶器	擂鉢	石英・長石	灰褐	灰褐	回転ナデ 櫛目	回転ナデ	–	(5.9)	–	–	外面に貼付突帯あり
第73図20	13SX015	土師器	脚	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ ケズリ	ナデ	–	(8.4)	–	–	
第73図21	13SX015	石製品	砥石	流紋岩					長6.7	幅5.8		厚1.8	
第74図1	13SX007	肥前染付	蓋		灰白(胎土)	明緑灰(釉)			つまみ径 (4.0)	2.9	–	(9.6)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に文様・圏線あり 外面に3重圏線・文様あり
第74図2	13SX007	肥前染付	小碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			(7.6)	3.1	–	(2.9)	高台の一部を除いて内外面に施釉 外面に文様あり
第74図3	13SX007	肥前染付	碗		灰白(胎土)	明緑灰(釉)	–	–	(9.3)	5.3	–	(3.9)	高台を除いて内外面に施釉 外面に文様・3重圏線あり
第74図4	13SX007	青花	碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			(10.4)	5.9	–	(3.8)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に2重圏線・文様あり 外面に2重圏線・文様あり
第74図5	13SX007	肥前磁器	碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			(9.8)	4.5	–	(3.9)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に3重圏線あり 外面に上絵付け文様
第74図6	13SX007	肥前磁器	瓶						3.3	7.1+α	–		
第74図7	13SX007	肥前染付	蓋		灰白(胎土)	灰白(釉)			–	(2.1)	–	(9.2)	口縁部の一部を除いて内外面に施釉 外面に文様あり
第74図8	13SX007	染付	皿		灰白(胎土)	灰白(釉)	銅版転写		(10.8)	1.7	–	(6.6)	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に文様・2重圏線あり 内面に一部ハクリあり
第74図9	13SX007	肥前染付	碗		灰白(胎土)	明緑灰(釉)	型紙摺り	型紙摺り	9.7	6.1	–	3.9	高台の一部を除いて内外面に施釉 内面に文様・圏線あり 外面に文様・圏線あり
第74図10	13SX007	京信楽系陶器	碗		灰白(胎土)	灰白(釉)			–	(4.4)	–	(2.9)	高台から底部を除いて内外面に施釉 外面に文様あり
第74図11	13SX007	京焼	皿		灰白	灰白	文様上絵付け		(27.8)	4.2	–	(18.8)	内外に厚い釉　貫入著しい
第74図12	13SX007	焼締陶器	擂鉢	石英・長石	にぶい赤褐	にぶい赤褐	回転ナデ 櫛目	回転ナデ	–	(6.4)	–	–	
第74図13	13SX007	土師質土器	焙烙	石英・長石・雲母・赤色粒子		にぶい黄橙			(6.2)	(36.2)	–	–	
第74図14	13SX007	鉄製品	蹄鉄						長10.5	幅10.1		厚1.4	

第7表　大道遺跡群第6次調査出土遺物観察表

図番号	遺構番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第81図1	6SD001	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母	黄褐色	黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図2	6SK002	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ミガキ	ミガキ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図3	6SD003	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ハケメ後ナデ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図4	6SK004	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母	黄灰色	浅黄色	ヨコナデ	ヨコナデ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図5	6SK015	弥生土器	甕口縁部	角閃石・雲母・白色粒子	灰黄褐色	橙色	ナデ	ナデ					刻目突帯、弥生時代中期

図番号	出土遺構	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
		種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径	器高	最大胴部	底径	
第81図6	6SK020	弥生土器	甕口縁部	角閃石・石英	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図7	6SK021	弥生土器	壺底部	石英・角閃石・雲母・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ					弥生時代中期
第81図8	6SK025	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・雲母・白色粒子	橙色	浅黄橙色	ていねいなナデ	ていねいなナデ					古墳時代布留1
第81図9	6SK025	弥生土器	甕底部	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	灰黄褐色	にぶい黄橙色	ていねいなナデ	ていねいなナデ		(6.8)		(7.2)	弥生時代中期
第81図10	6SK025	弥生土器	甕底部	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ		(5.4)		(7.8)	弥生時代中期
第81図11	6SK026	木製品	櫛						長5.2	幅2.9	厚0.7		
第81図12	6SD027	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ					刻目突帯、弥生時代中期
第81図13	6SD028	陶器	備前焼擂鉢	石英・黒色粒子	灰褐色	にぶい赤褐色							内面に擂り目
第81図14	6SD028	陶器	京焼風茶碗		灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ				(5.0)	畳付に砂目・全面施釉
第81図15	6SK034	磁器	青磁碗		オリーブ灰色	オリーブ灰色	回転ナデ	回転ナデ		(3.5)			
第81図16	6SK034	弥生土器	甕口縁部	角閃石・石英・雲母・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ					
第81図17	6SK034	弥生土器	甕口縁部	角閃石・石英	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ					
第81図18	6SK035	磁器	肥前染付け皿		灰白色	明緑灰色	回転ナデ	回転ナデ		(2.9)			全面に施釉
第81図19	6SK035	陶器	唐津焼皿		灰白色	にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ	12.0	3.9		(5.0)	外面は露胎を残す
第81図20	6SX037	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ後ナデ					
第81図21	6SX037	弥生土器	甕口縁部	石英・角閃石・雲母	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ					
第82図1	6SX029	土師器	鉢	石英・角閃石・雲母・長石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	(13.9)	(5.0)			
第82図2	6SX029	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ	ナデ	(12.0)	(4.6)			
第82図3	6SX029	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・雲母・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ					
第82図4	6SX029	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ヘラミガキ		(4.8)	(8.6)		
第82図5	6SX029	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	赤褐色	赤褐色	ハケメ後ミガキふうナデ	ハケメ後ヘラミガキ	(11.1)				ハケメ単位(9本／cm)
第82図6	6SX029	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・雲母・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ていねいなナデ		(8.2)b			外面底部に黒斑が認められる。
第82図7	6SX029	土師器	小形丸底壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキふうナデ	ハケメ後ミガキ					
第82図8	6SX029	土師器	器台	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ・脚部ハケメ後ナデ	ミガキ	11.8	10.0		(13.6)	祖形は、淡路型器台
第82図9	6SX029	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキふうナデ	ハケメ後ミガキ		(7.5)		(11.6)	
第82図10	6SX029	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヘラケズリ後ミガキ	ヘラケズリ後ミガキ		(8.2)		(10.2)	
第82図11	6SX029	土師器	鉢	石英・角閃石・赤色粒子	暗灰黄色	にぶい橙色	ナデ	ハケメ					頸部に刻目突帯を巡らす。
第82図12	6SX029	土師器	小形甕	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後指押さえ	ハケメ後ケズリ	(12.0)				
第82図13	6SX029	土師器	甕	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	暗灰黄色	にぶい橙色	ナデ	ハケメ	(21.8)	(11.8)			ハケメ単位(9本／cm)
第82図14	6SX029	土師器	長頸壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色	橙色	ハケメ	ハケメ	19.6	30.1			内面底部に工具痕、頸部に指頭圧痕 ハケメ単位(7～8cm)
第82図15	6SX029	土師器	甕	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ケズリ	ハケメ後ナデ	31.2	27.6			ハケメ単位(9本／cm)
第82図16	6SX029	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ミガキ					
第82図17	6SX029	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ハケメ ナデ					

第４次調査区遠景（南西から　　撮影：平成 15 年 3 月 19 日）

第４次調査区全景（上が北東）

写真図版 2　第 4 次調査　遺構 2

第 4 次調査区全景（北西から）

4SD003 遺物出土状況（南から）

4SD003 土層（南から）

4SD003 完掘状況 (南東から）

4SD003 緑釉陶器出土状況

4SD017 土層断面（北から）

4SE037 遺物出土状況 (北東から）

4SE037 完掘状況（南から）

4SH004 完掘状況（北東から）

4SK026 遺物出土状況（北西から）

4SX015 完掘状況（南西から）

第 4 次調査区完掘状況（北東から）

写真図版 4　第 4 次調査　遺物 1

遺構検出時出土鏡片（23-1）

4SD003 出土製塩土器

4SD003 出土美濃ヶ浜式土器

4SD003 出土平瓦

4SD003 出土羽口

4SD003 出土都城系土師器高坏

4SD003 出土灰釉陶器皿（外面）

4SD003 出土灰釉陶器皿（内面）

4SD003 出土緑釉陶器坏（外面）

4SD003 出土緑釉陶器坏（内面）

4SD003 出土須恵器大甕

4SD003 出土須恵器短頸壺

4SK033 出土遺物

4SE037 出土土師器 1

4SE037 出土土師器 2

4SE037 出土土師器 3

写真図版 6　第 5 次調査　遺構 1

第 5 次調査区遠景（南西から　撮影：平成 15 年 12 月 26 日）

第 5 次調査区遠景（北東から　撮影：平成 15 年 9 月 3 日）

第 5 次調査区全景（上が北西　撮影：平成 15 年 12 月 26 日）

表土剥ぎ状況

第 5 次調査区調査状況（南西から）

5SE045 遺物出土状況（南西から）

5SX044 遺物出土状況（北から）

写真図版 8　第 5 次調査　遺構 3

5SE148 土層（南から）

5SE148 遺物出土状況

5SE149 土層（南東から）

5SE149 遺物出土状況

5SE159 土層（南東から）

5SE159 遺物出土状況（南東から）

5SE163 半截状況（南東から）

5SE163 遺物出土状況（北西から）

写真図版

5SB001 完掘状況（北から）

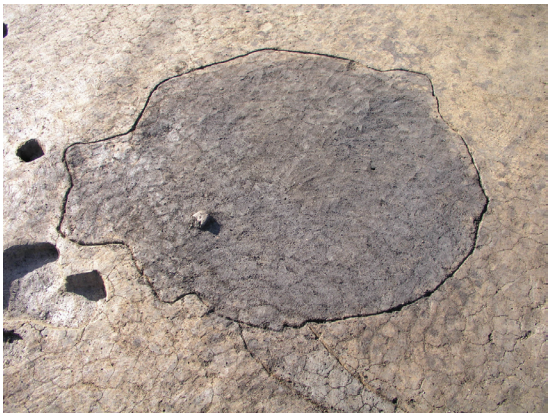
5SB002 検出状況（北から）

5SB003 検出状況（北から）

5SE048 井桁出土状況（北から）

5SE048 近景（南から）

5SE048 井桁接合部



5SE140 検出状況（北から）

5SE140 半截状況（北東から）

写真図版 10　第 5 次調査　遺構 5・遺物 1

5SD003 土層（北西から）

5SD042 土層（北西から）

5SE045 第 28 図 12

5SE045 第 28 図 4

5SE045 第 28 図 1 ～ 3

5SE148 第 30 図 2・3

5SE148 第 30 図 17

5SE148 第 30 図 15

5SE148 第 31 図 21

5SE148 第 31 図 20

5SE148 第 31 図 18

5SE148 第 30 図 13

5SE148 第 30 図 14

5SE148 第 30 図 5

5SE149 第 33 図 1

5SE149 第 33 図 2

写真図版 12　第 5 次調査　遺物 3

5SE159 第 35 図 5

5SE159 第 35 図 7

5SE159 第 35 図 6

5SE159 第 35 図 9

5SE159 第 35 図 1・2

5SE159 第 35 図 3・4

5SE163 第 37 図 15

5SE163 第 37 図 7・8

5SE163 第 37 図 17・18

5SX044 出土遺物

5SD005 第 54 図 2

5SE048 第 45 図 8

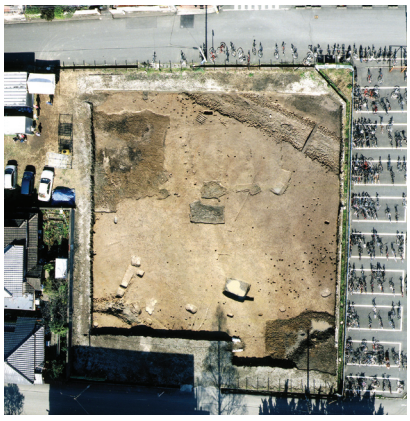
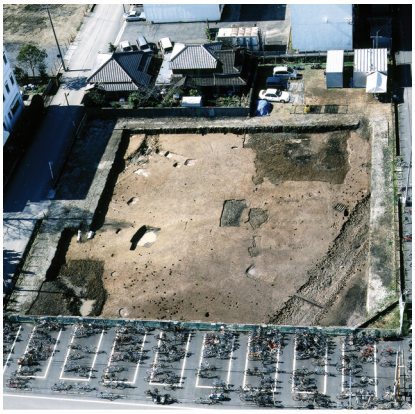
5SE140 第 47 図 3 ～ 5

5SD003 出土美濃ヶ浜式土器

奈良三彩壺（正面）

奈良三彩壺（内面・外面）

写真図版 14　第 8 次調査

第 8 次調査区空中写真（撮影：平成 17 年 2 月 21 日）遠景（西から）、垂直（上が北西）、近景（南東から）

8SD001 土層（北西から）

8SD013 出土状況・完掘状況（北西から）

8SK011 出土状況（南東から）

8SD001 第 60 図 7

8SD001 土師器椀

8SD001 須恵器甕

8SD011 出土近世磁器

12SD010 検出状況（南西から）

12SD010 土層（南東から）

12SX020 掘り下げ状況（北東から）

12SD010 出土須恵器 第 62 図 6

第 13 次調査完掘状況（北東から）

13SX015 検出状況（北東から）

13SX015 半截状況（北から）

13SX015 出土陶磁器

写真図版 16　第 6 次調査

第 6 次調査区全景（北から）

調査状況（北西から）

6SX015 土層（南東から）

6SX015 完掘状況（南から）

6SK026 土層（西から）

6SX029 第 82 図 15

6SX029 第 82 図 8

6SX029 第 82 図 14

6SK026 第 81 図 15

報告書抄録

ふりがな	おおみちいせきぐん
書名	大道遺跡群2
副書名	大分駅周辺総合整備事業に伴う発掘調査報告書５
巻次	
シリーズ名	大分市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第91集
編著者名	高畠　豊　井口あけみ
編集機関	大分市教育委員会
所在地	大分市荷揚町２番３１号
発行年月日	西暦２００９年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおみちいせきぐん 大道遺跡群第４次調査	おおいたしかないけみなみ 大分市金池南	44201	322329	33 13 41	131 36 30	030106～ 030326	1205	区画整理事業 （都市計画道路）
大道遺跡群第５次調査	大分市金池南	44201	322329	33 13 40	131 36 32	030501～ 031228	3169	区画整理事業 （都市計画道路）
大道遺跡群第６次調査	おおいたしひがしおおみち 大分市東大道2丁目	44201	322329	33 13 31	131 36 20	040123～ 040218	267	区画整理事業
大道遺跡群第８次調査	大分市東大道1丁目	44201	322329	33 13 42	131 36 29	041101～ 050228	1170	区画整理事業 （都市計画道路）
大道遺跡群第12次調査	大分市東大道1丁目	44201	322329	33 13 42	131 36 29	051012～ 051227	241	区画整理事業 （都市計画道路）
大道遺跡群第13次調査	大分市東大道1丁目	44201	322329	33 13 42	131 36 25	060124～ 060314	240	区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大道遺跡群第４次調査	集落跡	古墳時代	井戸　竪穴	土師器・鏡片	
		古代	大溝	緑釉陶器・灰釉陶器	
大道遺跡群第５次調査	集落跡	古墳時代	井戸　竪穴	土師器	
		古代	大溝・井戸 掘立柱建物跡	奈良三彩壺・転用硯	
大道遺跡群第６次調査	集落跡	弥生・古墳	溝	土師器・陶磁器	
大道遺跡群第８次調査		古代	溝	土師器・陶磁器	
大道遺跡群第12次調査		古代	溝	土師器・陶磁器	
大道遺跡群第13次調査		近世	溝	土師器・陶磁器	

要約

第4・5・8・12次調査では、古代の大溝遺構および掘立柱建物、井桁組の井戸が検出され、奈良三彩や転用硯も出土した。隣接する第23次調査で検出された9世紀初頭を中心とする時期の官衙遺構とみられる建物群に関連する遺構群であり、官衙の一部を構成していたものと推定される。また、第4・5次調査区では古墳時代前期の井戸跡が多数検出されており、第23次調査で検出された当該期の環濠集落の一部と考えられる。第6次調査区では、古墳時代前期初頭の淡路系土器が出土しており、当該期における瀬戸内海を経由した文化交流が窺われた。

大 道 遺 跡 群 2

大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５

平成 21 年 3 月 31 日

発行　大分市教育委員会
　　大分市荷揚町２番 31 号